### 驗

### 藤本博士ノ 石灰吸入療法 3 jν 肺結核患者治療

## 成績ニ就テ

東京市療養所

丸

Ŧī.

郞

### (五) 吸入治療開始當時 治療經過ト 比較

經	例	病	型	病		勢	病		期
過	数	增	滲	停	緩進	進	I	I	Ш
良 好	4	4		3	ı		1	2	1
稍、良 好	6	6		-4	2		1	3	2
不 變	5	5		4	1		3		2
不 良	3	3			3		1		2
著不良	2	1	]		2				2
夏合計	10	10		7	3		2	5	3
不變計	5	5		4	1	į	3		2
不良計	5	4	1		5		1		4
<b>其</b> 不 <b>夏</b> 又	一期ナ	レル者	病勢ノ	テ他ハ	上二表示	テ其吸	性〇)、	型(增殖	再议

吸入治療開始當時ノ病

/勢ノ停止性ナル者ノ大部分ハ良好ニシテ其他ハ不變ニ止リ不良トナ □()、三、病期(一期六例、二期五例、三期九例)。 ニ表示スル如ク、 |(增殖型十九、滲出型一)、二、 病勢(停止性十一、 變叉ハ良好ニシテ、 期ナル者ニ於テハ一例ノ合併症ニョ N 他ハ不變又ハ不良ナリ、 其吸入治療期間ノ經過ト比較スルニ上表ノ如シ。 述セル二十例ノ患者ノ吸入治療開始當時ノ病機ハ次ノ如シ、一、 者ナシ、緩進性ノ者ニ於テハ不良トナレル者稍~多シ。 病型ノ増殖型ナル者ニ於テハソノ過半數良好ニシ 第二 一期ノ五例ハ 滲出型ノー例ハ著シク不良トナレリ。次ニ 悉ク良好、 リ増惡セル 例 第三期ノ例ニ於テハ (第十六例)以外ハ 是等ノ 患者ニ 於 緩進性九、 病期ノ第 進行

不良ノ敷相近似ス。

不變、

臨牀實驗

第四表

(六) 吸入治療以前 經過ト 吸入治療期間經過ト 比較

#### 吸入治療以前ノ經過ト吸 計 3 1 $\mathbf{2}$

入治療期間經過トノ比較 稍 不 稍良 不 合 良 前 變 不 不變不良 好 良 瓦 良 後 7 7 6 10 4 2 1 2 2 頁 好 4 稍く 良  $\mathbf{2}$ 3 3 1 3  $^{2}$ 1 2 不 變 2 2 稍:不良  $^2$  $\mathbf{2}$ 良 1 1 著 不 良 1 1

> 六例 四 示 治療試驗(三)ニ於テ述べ 例 シ 居ル 1、吸入治療開始前四個月又ハ十八個月ノ ハー乃至二個 カヲ 調査スル 月 ノ粗 ハ 脱察ヲナ 必要ナル タ ıν 如 セ ク 事項ナリ、 吸入治療開 ıν 者ナリ、 經過ヲ觀察 前述 始前 次ニ此期 セ 經 ルニ十 過ガ 間 1 經 例 如 jν 過 モ 何 ノ ニ 患者中其十 ナ ト吸入開 シテ、 傾 向ヲ

後 經過 トノ比較ヲ表示ス可シ。

IJ 1 例 例 上ニ表示セ シ (良好四例 稍~良好三例)ニシテ二例ハ不變ナリ、 三例 例ハ第十六例ニシテ合併症ノ爲增惡セル例ナリ。 (稍~不良二例、 jν 如ク二十例ノ患者ニ於テハ吸入治療以前經過良好ナリ 稍~良好六例)ニシテ、之ガ治療開始以後七例ハ良好(良好四 不良一例) ハ治療後 而シテ一例ハ不良ナリ、 例ハ殆ド不變ナレドモ 吸入治療以前不良ナ 但シ /シ者十 他

卽チ治療以後良好ナル經過ヲ示セル例ノ大部分ハ吸入治療以前ニ於テモ良好ナル經過ヲ示シ來リシ者ナリ。 ク不良トナレリ。以前不變ナリシ七例ハニ例ガ不變ニ止マリシモ三例ハ稍~良好トナリニ例ハ不良トナレリ。

(七) 三個月以內吸入治療患者 ジ經 渦

二例

著

シ

不

第五表

テ一般狀態不良トナリ、 是等ノ例 三個月以內吸入治療ヲ施セル 期ナ ソ 八唯 シ Æ 他 例ヲ除 四例 ク以外ハ皆重症ニシテ長時日吸入ヲ持續シ得ザリシ者ナリ。 悉ク進行 他公 皆重態トナリ著シク不良ノ經過ヲ示シ後途ニ死亡セル者ナリ。 者五例アリ、 性三期ニ シテ其内三例 是等ノ例ハ治療期間甚ダ短キ故前述 ハ滲出型ナ y, 而シテ第二十 如ク詳述ス 卽チ第二十一例 ·一例ハ 結核性腹膜炎ヲ合併シ來リ jν 3 ŀ ヲ避ケタリ、 ۱ر 增殖型、 緩進性第 丽 シテ

#### (八) 吸入中止以後 經過

吸入中止後本稿起草時マデニニ個月以上ノ經過ヲ觀察セ jν 者六例アリ、 是等ノ 患者 總テ症狀増惡 爲中止 セ jν

者

シ

示シ、 月年ノ經過ニ於テ皆不良ノ經過ヲ示シ、 コノ内一例(第三例)ハ吸入中止後五個月ノ觀察ニ於テ體重增加(計)即二乃至四瓩ノ增加、 赤血球沈降速度ノ成績モ良好ヲ示シ經過稍~良好ト認メラル、ニ至レリ、 三名、死亡セリ。 他ノ十九例ニ於テハ輕快シテ退院セル 然レドモ其他ノ五例ハ二個月乃至四個 熱 者アリ、 脈共稍~良好(一)ヲ 或い尚吸入持

#### (九) 副作用

續中ノ者アリ。

等ニ於テハ本療法ヲ持續シ得ザリシコト勿論ナリ、 性咽頭「カタル」ノ患者ニ於テハ試驗的ニ試ミタル ヲ持續セシムルコトヲ得タリ。 一般ニ本療法ガ病症ニ障碍ヲ與ヘ、 サレド重症者、 特ニ不快ナル副作用ヲ惹起セシメタルガ 或ハ治療中次第二不良トナリタル Æ 明ナル副作用ハ認メザリキ。 尚合併症ノ項ニ於テ述ベタル 如 ク思惟セル、例ナク、 者、 如ク殆ド自覺症狀ナキ喉頭結核及ビ慢 喉頭結核ヲ併發シ自覺症狀强キ者 比較的長時日 吸入

### (一〇) 患者例

例 テ略ス可シ。 四個月以上二個年ニ亙ル吸入治療ヲ試ミタル二十例中ヨリ吸入治療期間經過良好ナリシ者二例、 不良一例、 著シク不良一例即チ合計十例ノ患者ヲ選ビ次ニ其經過ヲ述ベン、 其他ノ患者ニ就テハ大同少異ナルヲ以 稍、良好四例、 不變二

## 、 (第二例)、女、無職、二十三年

滲出液ノ殆ド吸收セラレタルヲ見ル、サレド體重ハ二•七瓩減少ス、喀痰並一日平均二○•○竓、 經過ニ於テ體溫稍く下降シ、最高三七・三位ニシテ稀ニ三七・六位トナルコトアリ、 量シ三月下旬ヨリ五瓦、七月以後ハ八瓦位トス、 六二粍(二時間)、 三七·六位、咳嗽、 大正十三年(二十一歳)十一月結核性腹膜炎ト診斷サル、十四年二月以來發熱、咳嗽、盜汗ヲ訴フ、同年四月東京市療養所ニ入所ス。當時榮養稍;不良、體溫 下部ハ濁音、 一二四粍(二四時間) 前面上部ハ呼吸音源弱、呼氣銳變延長、第三肋骨以下ハ呼吸音微弱ニシテ水泡音ヲ聽ク、左側背面下部ハ呼吸音粗糙ナリ)。約十個月間ノ | 喀痰、胸痛、 心悸亢進,呼吸促迫ヲ 訴フ、喀痰中結核菌及ピ 彈力纖維ヲ 認メズ、體重三四・二瓩、胸部所見(右側前面ハ第三肋骨以上輕 - 以上・如キ狀態・時(大正十五年二月)吸入ヲ 始ム、最初ハ 局法沈降炭酸「カルシウム」一日二乃至三瓦、其後漸次增 約十五個月ニ亙ル治療ノ結果、體重五・三瓩增加シ、 胸部所見 モ良好トナリ濁音界縮少シ. 鴻上氏補體結合反應(什)、赤血球沈降速度二五耗(一時間)、 胸部ニ於テ「ラッセル」ヲ聽取セズ、レントゲン像ニ於 水泡音減ジレントゲン像ニョルモ

ヲ以テ昭和二年六月退所ス。本例へ吸入以前稍~良好、吸入以後良好ナル例ナリ。 吸敷、心悸亢進、呼吸促迫、咳嗽、喀痰減少ス、喀痰量へ約一○•○竓トナリ、補體結合反應(一)、赤血球沈降速度二五、 テ吸入開始直前ノモノト比較スルニ右肺下部陸影へ以前ヨリ稍;硬化性ノ所見ヲ 示セリ、體溫ハ最高三七•○ニシテ 稀ニ三七•ニトナルコトアリ、 五七、一〇五、右ノ如ク輕快セ

## 1、■■■(第三例)、女、裁縫職、三十年

稍、減少、體重三・一瓩ノ増加ヲ示シ、 入ヲ中止セリ、赤血球沈降速度ノ成績ハ吸入前ョリ稍~良好ヲ示ス。吸入中止後五個月間ノ經過ヲ觀察スルニ吸入中止當時 ニ 比シ、體溫稍~下降シ、 體重ハ二•一瓩ノ減少ヲ來シ、喀痰ハ増加シ三五•○竓トナル。補體結合反應(卄)、右ノ如ク一般狀態ハ著變ナキモ、喀痰量相當ニ増加セルヲ以テ十月以來吸 ヲ聽取シ、 濁、前面背面共中等大水泡音ヲ聽取ス、右側へ殆ド變化ヲ見ズ、其後約二個月ノ輕過ヲ見ルニ、體重ハ三・六瓩增加ヲ示セルモ、體溫ハ稍ಽ上昇ノ傾向ニア 大正十四年(二十九歳)十一月以來頭痛,惡寒、發熱,呼吸促迫,咳嗽ヲ訴フ、十五年一月血痰アリ,同年二月入所ス,當時榮養稍~不良,體溫三七•六位,咳 治療後稍~良好ト認メタル例ナリ。 ン像へ以前ニ比シ病竈一般ニ硬化性トナリ、肺ノ萎縮傾向明カトナレルヲ見ル、體温ハ三七•六位、脈敷、呼吸敷、盗汗等ニ於テ輕度ノ減少ヲ示シタレド 人開始、一日二乃至三五、後ニハ五乃至八瓦ヲ吸入セシム。吸入開始後約十八個月後(昭和二年九月)ニ至リテ、胸部所見見ハ以前ト殆ド變化ナキモレントゲ 喀痰、胸痛、呼吸促迫、 即チ三七•六乃至三八•○ヲ最高トス、喀痰ハ一○•○竓位ニシテ結核菌(丗)、彈力繊維(十)胸部左側ハ同樣ナルモ右側前面ニ於テ所々散在性ニ小水泡音 背面肺尖部ニモ少敷ノ水泡音ヲ 聽取スルニ 至ル、補體結合反應(冊)、赤血球沈降速度(七五、九八、一一九)、カヽル狀態ノ時(三月二十四日)吸 盗汗ヲ訴ヒ、 補體結合反應ノ成績ハ同様ナレド赤血球沈降速度ハ稍~良好成績ヲ示ス、本例ハ吸人治療前稍~不良、吸入治療中不變 喀痰中結核菌(卄)ヲ證明ス、食慾、睡眠稍~不良、體重四五•五瓩、胸部ハ左側前面ハ一般ニ濁音、背面ハ一般ニ輕

# 三、■■■(第四例)、女、刺繍職、二十七年

彈力繼維ヲ見ズ、胸部右側前面上部ハ呼吸音稍~薄弱、呼氣延長銳變シ、第三肋間以下ハ呼吸音薄弱、濁音ヲ呈ス、背面モ下部及側胸部ハ濁音ニシェ呼吸音 核ト診斷サル。同年二月二十六日入所ス。當時縈養ハ中等ニシテ、體溫ハ三七•二乃至三七•三、咳嗽、喀痰、胸痛、心悸亢進、呼吸促迫ヲ訴フ、喀痰中結核菌、 大正十五年(二十六歳)七月滲出性肋膜炎ニ罹り約三個月ニシテ殆ド治癒ス、其後職業ニ從事シ居リシニ昭和二年一月感冒ニ罹リ發熱、咳嗽、喀痰ヲ訴ヒ肺結 テ體重一•八瓩増加セルモ其此ノ症狀ハ變化ナシ、喀痰最一○•○竓。四月以來吸人ヲ始ム、一日二乃至三瓦、 中央部ハ呼吸音稍~弱シ、 レントゲン像ニョリテモ殆ド滲出液ノ吸收セラレタルヲ見ル、其他ノ症狀殆ド變化ナシ、本例ハ稍、良好ト認メラレシ例ナリ。 約十一個月ノ治療ニョリテ脈敷、 左側前面肺尖部ニ小水泡音ヲ聽取ス、試驗穿刺及レントゲン像ニョリ滲出液ノ多少豬餾セルヲ見ル。約一個月ノ治療ニョリ 盗汗、胸痛、動悸,呼吸促迫等ノ減少ヲ來シ、喀痰量モ以前ノ半量位トナル、胸部ニ於テハ右側下部ノ濁音界 漸次増加シ十一月頃ニハ十五.其後十五瓦位迄

### ■■'第五例)、女、無職、二十年

月上旬三七•五位トナル、サレド喀痰ハ更ニ増加シー二○•○竓トナル、赤血球沈降速度(一一三、一一九、一三○)、諸症狀惡化シ四月一日死亡ス、 其後數日ニシテ體溫三九・○乃至三九・五、 聴取スルニ至ル。 聽取ス、脊椎ハ第九胸椎ョリ第十二胸椎ニ亙リテ左後方ニ灣曲ス、サレド疼痛ナク又寒性膿瘍ヲ認メズ、兩側ノ頸部淋巴腺敷個腫脹ス。約九ケ月ノ經過ヲ見 當時榮養不良ニシテ體溫ハ三七・六位、 入所ヨリ九ケ月間ノ經過比較的不良ナリシモ、其後十一個月間ノ吸入期間稍~良好ノ經過ヲ示セシモ、不幸ニシテ病症惡化シ死亡セル例ナリ。 水泡音モ稍少クナリ、食慾ノ増進ヲ認メタリ、體重三二•三瓩。然ルニ昭和二年一月十六日突然惡寒發熱シ、三八•六、脈一一〇トナリシニヨリ吸入ヲ中止ス。 年二月吸入開始、一日二瓦位、三月末ョリ三乃至四瓦、七月以後八瓦位。同年十二月ニ 至リテ 體溫三七•○位ニ下降シ、喀痰ハ一○•○竓位ニ感シ、 ルニ、體重三・九瓩減少シ脈敷稍~増加、睡眠、食慾稍~不良ノ傾向ニアリ、胸部ハ左側全面ニ小及中等大水泡音ヲ聽取シ、右側前面中央部ニモ小贁ノ水泡音ヲ 七歳ノ時頸腺結核ニ罹リ、 補體結合反應(卅)、 大正十三年(十八歳)九月結核性脊椎炎〃診斷ヲ受ク、大正十四年三月末、發熱三八•○'咳嗽'喀痰ヲ訴フ、同年四月三十日入所。 赤血球沈降速度(四六、一〇四、一三五)。 咳嗽、喀痰ヲ訴フ、食慾へ比較的良、體重三六・三瓩、胸部左側ハ前面背面共下半部輕濁音シテ呼吸音擴弱、 脈一二○乃至一三○、喀痰八○・○竓トナリ、 喀痰(量三○•○竓、結核菌卄、 胸部「ラッセル」増加ス、約十日間ニシテ體溫下降ノ傾向トナリ、二 彈力纖維一)、カ、ル狀態ノ時卽チ大正十五

## 五、■■■■(第八例)、女、事務員、二十五年

モ沈降反應ハ吸入開始前ト全ク同樣,赤血球沈降速度ハ良好ノ成績ヲ示セリ。本例モ經過稍~良好ノ例ナリ。 約六個月半ノ經過ニ於テ體重二•七瓩増加シ、脈敷、胸痛ノ多少減少セルヲ見ル、サレド其他ノ症狀ニ於テハ變化ヲ認メズ、補體結合反應ハ陽性度ヲ増加セシ (VI+, VI+)、カヽル狀態ノ時即チ八月二十日吸入開始、 セシモ其他ノ症狀ニ於テ變化ヲ認メズ、喀痰ハ極ク小量ニシテ 一日五乃至六個位、 體溫三七・○、 十二歳ノ時肋膜炎ニ罹ル、大正十五年(二十四歳)十月血痰アリ、 咳嗽、喀痰ヲ 訴ヒ、喀痰中結核菌ヲ證明セズ、胸部ハ 左側肺尖部前面、背面共呼吸音粗糙ナリ、約四個月半ノ經過ニ於テ體重ハ一•八瓩増加 一日二五 昭和二年一月突然約三○○竓ノ喀血アリ、 其後漸次增加セシメ十二月頃ハ八乃至十瓦ニ達セシメ、其後十乃至十二瓦ヲ持續セシム 赤血球沈降速度(一一、二九、 同年四月二日入所ス、榮養良好、體重三八・四 七一)、補體結合反應(廾)、沈降反應 KA2

#### 

前面下部及側胸部濁音、呼吸音一般ニ粗糙、上部ハ呼氣稍~延長、背面中央部少敷ノ「ラッセル」ヲ聽ク、左側前面中央部及下部稍~鼓音ヲ呈シ、呼吸音ハ一般ニ 胃ニ罹リ爾來咳嗽、喀痰、輕熱アリ、 大正十四年(二十四歳)一月肺尖「カタル」ト診斷サル、同年三月十一日入所ス、大正十五年六月輕快退所、 ル」ヲ聽ク、 背面下部打診音短ニシテ呼呼音粗糙、 四月五日再ビ入所ス。當時榮養中等、體重ハ四六・六瓩、 背面處々ニ散在性ニ少數「ラッセル」ヲキク、 體溫ハ三七・三位、 退所後三個月ニシテ職業ニ從事ス、昭和二年一月感 約六個月ノ經過ニ於テ咳嗽減少シ. 咳嗽. 喀痰(結核菌十)ヲ訴フ、 胸部ハ右側 胸部ニ於テ

臨牀實驗

九六)。本例ハ吸入治療以前モ稍:良好ノ經過ヲ示シ來リシ者ナルガ、吸入治療期間良好ノ經過ヲトリタル例ナリ。 補體結合反應ハ十二月ニ於テ(冊)、同時期ノ沈降反應ハ KAg(VI+,VI+)ナリ、赤血球沈降速度ハ十二月(一九、五一、九七)、昭和三年二月末(一八、四一、 重一•二瓩増加シ、胸部ニ於テハ殆ド「ラッセル」ヲ聽取セズ、咳嗽、喀痰、胸痛、倦怠感減少シ、食慾增進ス、喀痰ハ十五瓦トナル、サレド體重ハ殆不變ナリ。 「ラッセル」減少ス、體溫三七•○、喀痰平均三五•○竓,共他ノ症狀ハ不變ナリ、補體結合反應(冊)、沈降反應 KA₄(IV+, V+, VI+, VI+, VI+)、赤血球沈降速度(二 五一、一〇三)。カヽル狀態ノ時即チ十月一日吸入開始、一日二瓦、十二月頃ニ至リテ一日十二乃至十五瓦ヲ吸入セシム、約五個月間ノ治療ニヨリテ體

## 七、 (第十三例)、女、無職、三十年

咳嗽、咯痰ヲ訴ヒ時々盗汗アリ、咯痰中結核菌ヲ證明ス、體重四二・八瓩、胸部ハ兩側共前面,背面共殆ド全面ニ中等大及小水泡音ヲ聽取ス。約十八個月間 痰ヲ訴フ、大正十五年一月人工流産ス,其後約一個月間三七•八位ノ發熱,咳嗽,喀痰アリ,二月二十七日入所ス。當時榮養中等,體溫三七•一乃至三七•二, 力繊維一)。本例ハ吸入治療以前經過良好ニシテ以後モ稍~良好ナリシ例ナリ。 ド變化ナシ、補體結合反應ハ稍~陽性度ヲ増シタレド沈降反應ハ良好ノ成績ヲ示ス、赤血球沈降速度ハ(六○・九ニ、一三四)、喀痰(量極少量、結核菌卄、 持續セシム。約六個月半ノ治療後胸部「ラッセル」稍く滅少ノ傾向ヲ示シ,呼吸敷モ減少ス,レントゲン所見モ以前ヨリ硬化性ノ傾向ヲ示ス、サレド體重へ殆 結核菌(卅)、 モー般狀態 / 良好ヲ示セリ、補體結合反應(冊)、沈降反應 'K^(IV+, V+, VI+)、赤血球沈降速度(四四、八○,一二八)、喀痰量極少量(一日四乃至五個): シテ下降セシモ血痰ハ五日位持續ス、大正十三年一月結婚ス、大正十四年(二十八歳)五月少量喀血シ、二乃至三日發熱アリ、同年七月妊娠ス、共後咳嗽・喀 腺結核トナリレントゲン治療ヲ受ケ約半個年ニシテ治癒ス、大正十年(二十四歳)七月突然高熱(四十度)ヲ訴へ咳嗽アリ、醫師ニ右肺尖「カタル」ト診斷サル、約 八歳ノ時麻疹ニ罹り引續キ百日咳トナル、共後肋膜炎ニ罹り約半個年ニシテ快癒セシモ十二歳ノ時再ビ肋膜炎トナリ約一個年治療ヲ受ク、二十二歳ノ時左頸 ノ治療ニヨリ體温稍~下降ノ傾向ヲ 示シ゛ 週間後解熱ス,其後間モナク輕快シ何等症狀ナシ,大正十三年(二十七歳)五月突然喀血(約五○○•○竓)シ,咳嗽,發熱(三八•○)ァ リ, 彈力繊維(十)、 カヽル狀態ノ時(昭和二年八月下旬)吸入ヲ始ム,一日吸入量二五, 脈搏 呼吸、咳嗽、喀痰 盗汗等稍~減少シ、食慾,睡眠良好 トナリ、胸部所見及體重ニハ殆ド變化ヲ認メザル 其後次第ニ 増加セシメ 十二月中旬以後十乃至十二瓦ニ達 體溫八二日位ニ 彈

# 

呼吸促迫アリ、 月始再ビ喀血ス、 診斷サレ二十日閒治療ヲ受ケ快癒シ職業ニ從事ス、八月末約十竓ノ咯血アリ、體溫三八∙○トナリ、 乳兒期ニ於テ肺炎ニ罹リ、其後感冒、氣管枝「カタル」ニ罹り易キ傾向トナル、大正十五年(二十歳)七月盗汗、惡寒ヲ訴フ、サレド咳嗽、 胸部へ右側前面上部及中央部濁音,下部輕濁,呼吸音へ一般ニ粗糙ニシテ中等大水泡音ヲ上部ニ多數聽取ス,左側前面上部ハ 濁音ニシテ 下 體溫三七・五、昭和二年二月九日入所ス。當時縈養ハ不良ニシテ體溫三七・一乃至三七・二、時々三七・五位ニ達ス、咳嗽、 咳嗽、喀痰、 盗汗アリ。 九月中旬以後諸症狀輕快ス、十二 喀痰ナシ、 血痰ヲ訴ヒ

績ハ何レモ良好トナレリ。 粍トナリ、呼吸促迫、 ス、咽頭粘膜充血シ時々乾燥感ヲ訴フ、體重四六・五瓩.約七個月ノ經過ニ於テ體重一・二瓩增量シ、體温稍~下降、 方ハ軽濁音ナリ、 小水泡音ヲ全面ニ聽取ス、左側背面ハ一般ニ輕濁音ニシテ呼吸音ハ上部粗糙、下部ハ薄弱ナリ、小水泡音ヲ下部ニ多数聽取ス、右頸部淋巴腺多数腫脹 彈力纖維十)。十月一日吸入開始、 喀痰ハ輕度增加ノ傾向ヲ見タリ、補體結合反應(冊)、沈降反應 KA;(Ш++, IV++)、赤血球沈降速度 (九三,一○九、一二五)、喀痰 (量七五竓) 上部ハ氣管枝音ヲ呈シ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、下部及側胸部ハ「クニステルン」ヲ聽ク、右側背面上部及中央部ハ濁音ニシテ、呼吸音一般 倦怠感 氣分等ニ於テ多少良好ノ傾向ヲ見タルモ其他ノ症狀及所見ハ殆ド不變ナリ。補體結合反應、 一日二瓦位、 其後漸次增加シ十二月以來六乃至八五、 後十瓦內外トス、約五個月ノ治療ニョリテ喀痰量ハ五〇 脈敷稍、減少ノ傾向トナリシモ、胸部「ラ 沈降反應, 赤血球沈降速度等ノ成

本例ハ吸入前及後ノ經過ニ於テ殆ド不變ト認メラル、例ナリ、而シテ吸入療法が特ニ存在セル慢性咽頭、カタル」ニ對シ不良ナル影響ヲ與ヘザリシモノ、如シ。

# 九、 (第十九例)、男、學生、二十四年

補體結合反應ハ陽性度稍に減ジタルモ、 増加ノ傾向ヲ示シタルモ、 中旬)吸入ヲ始ム、 大正十二年一月(二十歳)咳嗽ト共ニ突然咯血ス,大正十四年五月以來咳嗽,喀痰ヲ 訴 フ、大正十五年九月入所ス,當時變養ハ不良,體溫三七•二乃至三七• (量一日三〇竓、 體溫、脈、 背面上部ニ中等人水泡音ヲ聽ク、 時々三七・八位ニ上昇ス、咳嗽、 呼吸敷ハ稍く下降又ハ減少ス、喀痰量ハ減少シ、體重ハ二•四瓩ノ増量ヲ示シ、一般狀態稍~可良トナル、卽チ體溫ハ三七•三位ニシテ、喀痰 結核菌卅、彈力繊維卄)、補體結合反應(冊)、沈降反應 KA<sub>4</sub>(1Vm)、赤血球沈降速度(四四、七九、一二三)。カヽル狀態ノ時(昭和二年十月 一日二乃至三瓦、 胸部所見、レントゲン像ニ於テハ稍~良好ノ傾向ヲ示シ、 喀痰(結核菌ヲ證明ス)ヲ訴フ、體重四○•四瓩、 漸次増加シ、十一月上旬ョリ十乃至十五五、 右側ハ上部呼氣銳變シ「パイフェン」ヲキク。約十二ケ月ノ經過ニ 於テ、胸部ニ稍~乾性「ラッセル」ノ増加ヲ認メタル 沈降反應ハ陽性度稍に増シ、赤血球沈降速度ハ一時間ノ値稍に減ズ。本例ハ吸入治療前後共稍に良好ノ經過ヲ示セ 十一月末ヨリ十五乃至二十瓦ニ達セシム。約四個月半ノ治療後、 胸部左側前面上部ハ呼吸音薄弱ニシテ粗糙、 喀痰、呼吸促迫稍;減ズ、體重ハ二•○瓩ノ増量ヲ示ス、喀痰量二○竓 前面一般ニ小水泡音ヲ聽取 脈敷ハ稍

# 一〇、 《第二十例》、男、建築業、三十四年

例ナリ

時三九•○トナル、同年八月末喀血二囘アリ、其後熱下降シ、十二年四月ニハ無熱トナル、十三年九月輕熱ヲ訴ヒオル內大喀血アリ、ソレヨリ十二月中旬迄 間持續ス、其後輕熱アリ。 明治四十四年(十八歳)盗汗ヲ訴ヒ肺尖「カタル」ト診斷サル、一年半靜養セシモ 病牀ニ 就キタルコトナシ、大正三年十一月喀血ス、一週間後恢復シ通學ヲ始 大正四年春右側乾性肋膜炎ト診斷サル、 一ヶ月靜養ス、 其後職業ニ從事スルニ輕熱ヲ訴ヒ靜養ス、大正十一年三月大咯血アリ、發熱三八•○位、 輕度ノ胸痛ヲ 訴ヒタルノミ、 半個年靜養ス、 大正六年春咯血、 大正十年九月登山後左側肺炎ニ罹リ高熱約十日 其後三七・七位ノ熱續キ時

時々略血ヲ見ル、 位 約三ヶ月間職業ニ從事セシガ發熱三八•○位トナリ諸症狀不良 トナリシヲ以テ 十二月二十一日再ピ入所ス、當時榮養ハ不良,體重ハ五四•一瓩,體溫三七•三 不良トナリ、 吸入前ト同様ナルモ沈降反應ハ陽性度稍;増加シ、赤血球沈降速度ノ成積ハ稍;不良トナル。 . ノミニシテ其他ノ症狀ハ殆ド不變ナリ、補體結合反應(冊)、沈降反應 KA:(VI+, VI+)、赤血球沈降速度(一七、 喀痰ヲ訴フ、 「ラッセル」ヲ聽取スル部分廣マリ、 カ、ル狀態ノ時(昭和二年十月中旬、 十四年五月迄絕對安靜加療ス、五月東京市療養所ニ入所ス、十五年九月退所ス、其間諸症狀輕快シ、 胸部へ右例肺尖部及上部前面背面共濁音ニシテ氣管枝音ヲ呈シ、背面ニ小水泡音ヲ聽取ス。 體溫 三十四歲)吸入開始ス、一日二乃至三五、十一月末ョリ十五五內外トス、 脈 喀痰ノ多少不良ナル傾向ヲ示シ、 咳嗽ハ増加シ、 本例ハ吸入治療前經過殆ド不變ナリシモ吸入治療期間ニ於 體重ハ二・九瓩ノ減少ヲ見タリ 四三、九〇) 喀痰(量一〇竓、 約十個月ノ経過ニ於テ喀痰量稍、増加 體重モ増加シ、一般狀態可良トナル、 約四ヶ月半ノ治療後胸部所見稍 補體結合反應 結核菌針

### (一一)對照患者ノ經過

不良ノ經過ヲ示セリ。

撰擇スルニ當リ單ニ 患者ニ就キ 後平衡狀態ニスル 好 **妶ニ擧グル對照患者ハ石灰吸入治療患者ト同一時期ニ在所シー般療法ニョリテ經過ヲ觀察セル** 次ノ表ニ於テ對照患者 (結核第六卷三號) jν ノ經過ヲトリタル者ナリ、 /ノ經過ヲ示セル吸入患者ト殆ド同一時期ニ入所 ノニシテ前期ハ 統計的 ナリ。 卽チカ、ル 者多ク、 一調査セ 吸入治療患者ノ吸入治療期間ニノミ在院セル患者ヲ擇バズ入所時モ相近似セル 其以前、 ノ在院期間ヲ前後ノ二期ニ分チ ラレタル 又季節ニョリテモ體重ノ動搖ヲ見ルコト 關係ハ獨リ體 一般ニ療養所ニ收容セラレタル患者ハ入所當時ニ於テ比較的急速ニ體 ノ期間ヲ示スモノナリ、 成績 ニョリテモ 重ノミナラズ其他一般症狀ニ於テモ相當影響アル可 シ、 明カニシテ、 觀察セル所以ナリ、 吸入治療患者ノ最終觀察時又ハ其後迄在所セル 而シテ吸入患者在院期間ノ後期トハ吸入治療期間ヲ意味 佐々虎雄學士モ是等ノ點ニ關シ述ベラレ ハ旣ニ同僚鈴木佐內氏ガ東京市療養所ニ於テ多數 即チ後期ト ハ 吸入患者 者ナリ、 キヲ思ヒ ノ吸入治療期間 者ヲ擇 重 者ニシテ比較的良 ノ増加ヲ示 余い對照患 即チ良好又ハ不 タ E. タ Ý, スル に二一致 ŀ <u>></u> 從テ アリ Æ 其

後兩期ニ 於ケル 吸入治療患者及對照患者ノニ、三ノ症候及全經過ヲ比較 汁 表 趟 洇 ĢH. ਅ 光 揳 セ jν Æ 1 = シ テ、 症狀變化 記

號

ナ

jν

表 = ŀ

前 勿論 臨牀實驗

Rath	г.		Ι.		1 .		<del></del>		1		1		ī		7				1		
中 病 病 病 (AF)   10   20   10   10   10   10   10   10		9		יע		<u>-</u>				.5 		5 		<b>x</b>	H	<u> </u>		ಎ	松	<del>}**</del>	-
	•	<del>}</del>	٥	<b>→</b>	0	<del>}</del>	-	•	٥	<b>→</b>	-	ŀ	-	₩	-	<b>⊬</b>	-	þ	F	Ř	
株	i,	o	1	2		<b>9</b> 0	2	<b>9</b> 0	l t	2A		23	. !	25	!	9.7	9	<u> </u>	鄠	年	
株	717世,	南	1月7日3	南路	(四/百/	<b>基</b>	台灣,	₽ P	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	粉結		母配	ı.	西温		超話	田/田	西部	膛	依	72
(日本)         (本)         (本) </td <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>磐</td> <td>룺</td> <td>屎</td>			1				1				1		1				1		磐	룺	屎
Reg   Fig   Fig					1			-			1										泉
19   19   19   19   19   19   19   19	家	垩		雪	溆	事		墨	金		金	響			<b>※</b>		**	THE STATE OF THE S			
10   10   10   10   10   10   10   10	<u> </u>										-		-				-			所期	7
本     數所     經     經     性     年     病     病     病     所     經     名     名       67.7.     26     24     26 <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td> </td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><del>'</del></td> <td><b>38</b></td>											-				-					<del>'</del>	<b>38</b>
野野   簡   一	<u> </u>								-		-		+				11	ļ			淋
整   株   株   株   株   株   株   株   株   株	<u> </u>	+	+	+	 			1+		1	l —	+	+	+	+	+	+	#	常見	绚所	
18   18   18   18   18   18   18   18		1	+	ì	1	11		1	+		+	1+	+	+	1+	1+	1	+	超		
<ul> <li>恵 住 年 病 病 病 病 行所期間 體 胸所 體 総 本 件 館 理 歩 期 時期 月数 買 部見 温 語 中 26 培殖 総逃、 II 後 11 井 十 一 不</li></ul>			$\kappa$	×	1			_			1	K	1	K	1	K	K	答	u.,	346	
語   中   病   病   病   病   (4   1   1   1   1   1   1   1   1   1			黨	躑	July 1	AMI.		<u> </u>	Уш	i	1	烂	İ	徽	1	鑿	燈	不同	(3E	HS	
年     病     病     病     水     期間     體     照       88     型     券     期     日     日     10     日     11     日     日     10     日     11     日     日     11     日     日     日     11     日     日     日     11     日     日     日     日     11     日																			☆	ġ <del>lii</del>	
据 据 照 思 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图 图	+	0	0-	<del>)</del>	+	0	0-	<b>&gt;</b>	٥	<b>→</b>	0	<b>→</b>	-	6	٥	<b>→</b>	+	•	H	<u>‡</u>	
病 病 (	t	ခဲ့ ၁	3	3	5	io Ti	1	<u>.</u>		ī.	, t	2	- 5	 %	t H	2	5	9 <u>6</u>	零	产	
病 病 (	16 E.		HK EL		11/2	# · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	至	 }	五	to at	1 1	南	3	章 (計	一	<b>*</b>		# H	糧	被	對
1											1				1		į.		选	依	
18   18   18   18   18   18   18   18						i					1		l				ĺ		期	瘌	照
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1																				1	
8			***							<u></u>		<u></u>		=   	75/4	<u></u>		<u></u>		:所期	
者 関 の	4.5	55	51	7.5	ت 	16	6.5	0.5	ۍ	7	6.5	6	6.5	to	11	-	18	cs ——	「數	明 明	Ş∰
體溫士 二士 二二二十十十二二二十十十二二二十十十二二二千 十十十二二二十八 不不不不不 稍 稍 将 不 稍 稍 不 不 相	≢	+	1+	+	+	#	<del> </del>	+	+	‡	+	+	#	+	#	+	#	+	<del>      </del>		
不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不	1	+	1+	1+	1+	1	1	ı	1+	ı	1	+	+	1+	ı	+	+	1+	部見	西河河	琳
一個   一   一   一   一   一   一   一   一   一	11	1+	1+	1+	1+	111	1	ı	1+	1+	1+	1	II	+	ı	1+	ı	1+	鯔	H	
	·	聋	→;	*	李				<del>&gt;</del> ,	ざ	益	答		K		K	$\kappa$	$\kappa$			Ì
	斌	-7	. Jen	(240	- 1						J		畑	Pino		(734ë	مهي	i) žte	道	档	•

第 表ノ標準ニ從ヘル リテモ 良好ナル モノト 經過ヲ見得 、ス、 而シテ經過ノ良否ハ各症候及各所見ヲ綜合シテ得タル結果ヲ示ス。 事實 マ ノ 一 端ヲ示セシ = 止 jν Æ ノナレ ۴ モ、 諸條件ノ略~ 相比適セ 對照例 jν 例 ン ハ ー ヲ 般療法 選べ

### 二、綜括結論

例

ノ患者ニ就キ治療追試ヲ試ミタリ。

點ニ於テ人ノ興味ヲ惹クヲ得レバ幸ナリ。

余ハ藤本武平二氏ノ肺結核患若ノ石灰吸入療法ニ關スル報告ニ基ヅキ大正十五年二月ヨリ約二 一個年間ニ亙リ二十五

六例、 二、二十五例ノ患者中四個月乃至二個年間吸入治療ヲ試ミタル者二十例ニシテ、 ルヲ見ズ。 緩進性(進行ノ緩慢ナル者)八例(一期一例、二期二例、三期五例)ナリ、 四個月以上吸入治療ヲ試ミタル二十例ノ內、 四個月以上二個年ニ亙リ吸入治療ヲ行ヒタル二十例ニ付吸入期間ノ一般經過ヲ見ルニ、 不變五例、 不良三例、 著シク不良二例ナリ。 增殖型停止性十一例(一期五例、 個々ノ自覺的及他覺的所見ニ於テハ他少良好ナル者アレド 而シテ滲出型緩進性ナル者一例(三期)アリ。 三個月以內ノ者五例ナリ。 二期三例、 良好ナル者四例、 三期三例) ニシテ、 稍~良好 Æ

Ŧį. 者六例中、二例ハ良又ハ稍~良好ニシテ、三例ハ不變、一例ハ合併症ノ爲不良トナレリ、二期ノ者五例ハ皆良又ハ稍~良 不良トナレル者ナシ。緩進性ノ者九例ノ約半數(五例)ハ不良ニシテ良好又ハ稍~良好三例、不變一例ナリ。 九例ヶ約半敷(十例)ハ良好叉ハ稍~良好ノ經過ヲ取リ、五例ハ不變ニ止リ、四例ハ不良ノ經過ヲ示セリ、 好ノ經過ヲ示シ、三期ノ者九例ノ中四例ハ不良、三例ハ、良又ハ稍~良、二例ハ不變ニ止レリ。 右ノ二十例ノ患者ニ於テ吸入治療開始當時ノ病機ト吸入治療開始後ノ經過トヲ比較スルニ、病型ノ増殖型ナル者十 例ハ著シク不良トナレリ。病勢ノ停止性ナル者十一例ノ大部分(七例)ハ良好又ハ稍~良好ニシテ、四例ハ不變ニ止リ 病型ノ滲出型ナ 病期 71一期

六、前記二十例ニ就キ吸入治療以前ノ經過ト吸入治療期間ノ經過トヲ比較スルニ、吸入治療期間ニ於テ良好又ハ稍~

良好

良好、 七、三個月以内ノ吸入ヲ試ミタル五例 ハ以前ニ於ラ稍~良好ナリシ者(合併症ノ爲不良トナル)ニシラ、二例ハ以前不變ナリシ者、 、レド以前不良ナリシ者ノ良好トナレル例ナシ。 經過ヲトリシ十例 二例、不變、 一例ハ稍~不良ナリシ者ナリ。 ブ中、 七例ハ吸入治療以前ニモ良好又ハ稍~良好ナリシ者ニシテ、三例ハ以前不變ナリ (增殖型緩進性一期一例、 吸入期間ニ於テ不變ナル經過ヲトリシ五例中、 吸入期間ニ於テ不良又ハ著シク不良ナル經過ヲ示セル 增殖型進行性三期一例 **滲出型進行性三期三例)ハ皆不** 二例ハ不良ナリシ者ナリ。 二例ハ以前ニ於テ稍~ 五例中、 シ者ナリ、 一例

良好ノ經過ヲ示セルモ、 症狀增悪ノ爲吸入ヲ中止シ、 他ハ悉ク不良ノ經過ヲ呈 其後二個月以上ノ經過ヲ觀察セル り。 者六例アリ、 此內一 例ハ中止後五個月間 於テ稍

九、特ニ副作用トシテ 擧グ 可キモノヲ認メザリキ。

良又ハ著シク不良ノ經過ヲ示セ

患者ヲ選ビー般療法 對照患者ト シテハ石灰吸入患者ト殆ド同一時期ニ入所シ、 ノミニ委チ置キ其經過ヲ對照比較セシガ略~同樣ナ結果ヲ示セ 在所期間モ略 ~同一ニシテ諸條件/ り。 比較的 相 匹 適 セ w

以上成績ヲ通覽スルニ、 入治療開始後良好トナレル例ナシ、 ド良好例ノ大部分ハ吸入治療以前ニモ良好ナル經過ヲトリ來リタル 主トシテ増 サ 殖型ニシテ病勢ノ停止性ナル レド 副作用トシテ特ニ指摘ス 者二於テハ比較的良好ナル jν 者ナリ、 Æ , モ 認 吸入治療以前經過不良ナリシ者ニ於テハ吸 ムル 能ハズ。 經過ヲ示 セ jν 者ア y. サ  $\nu$ 

以上余ガ治療追試 斷定スル 憚ル Æ ノナリ、 ノ概要ナリ。 故ニ今ハ唯得タル事實ノ報告ニ止ム可 サ レド吾人ノ實驗例數 ハ未 ダ少數ニ過ギ シ。 ザ ıν ガ故ニ是ヲ以テ直 チニ本療法 1 效果如 何

謝 稿ヲ終ル ノ意ヲ表シ、 臨ミ、 直 接本追試 東京市療養所長田澤博士ノ御校閱ノ勞ヲ深謝シ、 援助 セ ラ A n 佐 \tau 涌谷 鴻上、 高橋ノ諸先輩 懇篤ナル 御指導ト御校閱ヲ賜リ 並 醫局 諸兄 謝 高ラ 表 タル 遠藤 副 所長 感

# 喀痰中ノ結核菌ト肺結核ノ豫後

## 阪市立刀根山療養所

次

辻 川 健

大

肺結核 中ノ 喀痰中ノ jν ベキ 患者ニシテ其ノ喀出スル結核菌數ハ時ニヨリテ非常ニ變動スルコトアルモナリ。 w. (Kuthy & Wolff-Eisner: Die Prognosestellung bei der Lungentuberkulose, S. 242 結核菌數ニョリ肺結核ノ良性、 誰シモ 結核菌 豫後ヲ定ムル 考フル所ナリ。 ノ有無モ亦其ノ参考ノートナル コト ハ非常ニ 痰中結核菌ノ漸減スル 惡性ヲ決定セントスルコ 難事 ニシテ、 べシ。 各患者個々 喀痰中ノ結核菌ヲ出スモ ハ良徴ニシテ、 トハ向フ見ズノ業ナルコト、Penzoldt, Strümpell, Cornet u ニッキ 種 增 Þ 加ス 1 條件ヲ參酌考察スベ w ۸ر ノハ然ラザル 病症増惡ノ徴トス (短期間内ニ)。 参照) ノ主張スル モノヨリー キナリ。 べ シ。 が如シ。 般ニ豫後不良ナ 然 ۴ 然 Æ 喀痰 同

記 ヲ調査シタリ。 余八刀根山療養所ニ入所セル患者、 ス コト、セリ。 勿論喀痰中ノ結核菌數ト豫後ニッキ大シタ役ニハ立タザ (表示) 一○○七名ニッキ入所時ニ於ケル唯一囘 jν ~3 キ ノ喀痰檢査ノ成績ト其 ŧ 多少ノ参考トナ (ノ轉歸 ıν ベ シ ۲ ŀ 思っ故 間 (ノ關係 妶

助手、 患者、大正九、十、十一、十二、十三、 (大正十五年六月調査)入所患者中喀痰ヲ出サヾ 竹内氏ノ行ヒシ所ニ因ル。 十四年ノ六個年間ノ人所者ニシテ大正十五年六月迄ニ其ノ轉歸確定セ jν モノヲ除キ他ハ殆ンド全部檢査セリ。 喀痰檢查 尙療養所研究室 Æ ノナ

膜炎、 テ除外スル チール、ガベット氏法ニョリ喀痰塗抹標本ニ於テ檢ス。 腸結核、 = ŀ ナク、 喉頭結核等ニョ 統計中ニ 加へタリ。 ルモノアリ。 治癒ト 尚非結核性腦膜炎、 ハ菌喀出者ハ菌ヲ出サド 集菌法等ハ行ハズ。 脚氣、 脳溢血等ニョル jν 死亡ノ原因ハ多クハ肺結核ナレドモ、 樣ニナリ。 作業能力ヲ恢復ス Æ ノ一乃至二アリ、 jν 是等 = 至 レル 肋腹 ス Æ

ノナリ。

	計	無數	多數	XI	VШ	۷П	VΙ	Ψ	IΥ	E	Ħ	н	0	- 報	ガラキ痰中菌
	175	ಜ	24	4	_∞	14	13	15	24	9	15		16	1月 以内	
	178	17	17	ಬ	16	15	16	19	26	15	14		20	2月	喀痰懐
	130	9	=	0	12	14	20	10	25	9	-7		13	8 内 内	貧り思
澔	166	12	6	1	=	15	20	10	31	14	15	щ	28	以内	ョリ患 或へ年
壁	117	4	ಎ	0	7	14	11	14	19	57	18		22	1万年内	者死亡 数
) i mate	39	బ	2	0	0	0	0	ప	19	బ	5		13	2 以内	K <del>H</del>
数	29	1	0	0	0	1	2	2	5	22	4		9	少年 上年	
	831	79	63	<b>∞</b>	54	73	82	75	140	57	78	1	121	<b>"</b>	死者
	176	4	3	0	బ	0	4	10	11	4	7	0	130	橫	谷
	1007	83	66	8	57	73	86	85	151	61	85	1	251	平	콰
	17.4	39.7	26.4	50.0	14.0	19.1	15.1	47.6	15.9	14.8	17.6		6.4	1月以内	
	17.7	20.5	25.8	37.5	28.1	20.5	18.6	22.4	17.2	24.6	16.5		8.0	2月	略技権
	12.9	10.8	16.7		21.0	19.2	23.3	11.8	16.6	14.8	8.2		5.2	3 以内	喀痰檢査時ョ / 月或ハ年敷
١.	16.5	14.4	9.1	12.5	19.3	20.5	23.3	14.1	20.5	23.0	17.6	(100)	11.2		1) 患者
%	11.6	4.8	4.1		12.3	19.2	12.8	16.5	12.6	8.0	21.2		8.8	1 以内	<b>  死亡=至</b>
数	3.9	3.6	3.0					3.5	6.6	4.9	5.9	-	5.2	2 年 内内	アマゴ
	2.6	1.2				1.4	2.3	2.4	ಪ	3.2	4.7		3.6	2年	
	82.5	95.2	95.5	100	94.7	10.0	95.4	88.2	92.7	93.4	91.8	(100)	48.2	草中	死亡#
	17.5	4.8	4.5		5.3		4.6	11.8	7.3	6.6	8.2		51.8	極	郃

一、一囘ノ檢査ナレドモ喀痰上記ノ表ニヨリ見ルニ

證明セル患者ニテハ、治癒率六•一%ナリ。 一、一囘ノ檢査ナレドモ喀痰中ニ結核菌ヲ證明シ得ザリシ 患者ノ五一•八%ハ 治癒セリ、 然ルニ多少ニョラズ結核菌ヲ

勿論喀痰中ニ結核菌ヲ證明シ得ザリシ患者中ニハ非肺結核患者モアリシナルベシ。

喀痰ヲ出セル患者中ニモ五%近クノ治癒者ヲ出セリ。

一、喀痰中ニ結核菌ヲ見出セル患者ニ於テ、菌ノ多少ハソノ死亡率ニ大ナル關係ナシ。多數或ハ無數ニ結核菌ヲ含メル

セシモノハ四〇%近クーケ月以内ニ死亡スルニ反シ、 一、菌ノ多少ト死亡率トノ間ニ大差ナキモ、生存期間ニ關シテハ著明ナル差違アリ、卽チ「ガフキー」九號以上ノ菌ヲ出 ヨリ少キ菌ヲ出セシ者ニテハソノ死亡率一五•○%内外ナリ。

#### 社 會醫學並統計

### 佛國結核見聞記

九二八年六月一日 五日

巴里ニテ 醫學博士 令

巴里大學ニ關係アル病院

Université De Paris ト云フ學生ノ携帶スベキ「カレンダー」デ講義ノ「プラン」ガ書イテアル小冊子ガアリマ 一九二七乃至一九二八年ヲ買ヒマシタ、此本ハソルボンヌ大學カラ出版サレ大キナ本屋ニ賣ッテ居ル。 ス 其最近版

私ノ買ツタノハマロットヌト云フ本屋デ醫科大學ノ近クニアリマス、此マロァトヌ Maloine 書店ノ前ニハ解剖學者ブロ ーカノ銅像ガアリ又道ヲ隔テ、サン、チエルマンノ通リニハ例ノマッソン Masson ト云フ書店ガアリマス。

究所ノ事ガ書イテアル。 此巴里大學ノ醫科大學ノ部ニハ多數ノ附屬醫院、 教授ノ擔任科目、 講義、 講習等ノ事ガ書イラアリ叉大學ニ關係アル研

ピタルボウジョン(六一〇牀)。オピタル チゥケル(四五七牀)。 大キナ病院ハ、オテル、デイユ(六〇七牀)。 オピタル、 コーシャン(七七九牀)。 オピタル、ラリボァジエール(一〇八六牀)。 オビタル、 サンルイ(二三三五牀)。オ

オピタル ラ、 シャリテ(九四四牀)。 セルジャン教授

オピタル、 サン、アントアヌ(八九九牀)。 ブザンソン 教授

ラエンチック(三三六牀)。レオンベルナル教授及リスト氏

オピタル

其他ニ神經系統病ニテ有名デ且外科ゴッ セ ノキ jν 、オスピスサルペトリェール(三八五〇牀)。

一一九七

男

村

荒

小兒科病院ニハオピタル 昨年日本へ來ラレタアシャー教授ハボージョン病院ニ、 ド(二三八牀)等ガアリマス。 總テ是等ノ病院ハアッ 'デ、アンファン(七○四牀)及オピタル、デ、アンファン、アッシステ (八○二牀)、 シスタンス、プブリックノ補助ガアル。 是等ノ病院ニハー個或ハニ、三以上ノ専門科ガアツテ夫々各科ノ教授ガ立籠ツテ居 ヴィダル教授ハコー 此補助ニョル シ 病院ハ合計二十九モアリマス。 ヤン病院ニ居リマス。 オピタ ıν 工 п

小見結核ニ就テ研究シテマル (病院名ハ私ニモ分リ易イヤウニ『リエゾン』無シニ發音シテ書イテアリマス) ファンノ 法則ヲ唱導シタマルファ ンハオピタル、デ、 アンファン、

アッシステニ居リマス。

#### 結核臨牀家

ラリ 結核ト云ツテモ私ノ云フノハ主トシテ肺結核ニ就テノ臨牀家デアリマス。 ス各科ノ結核ニ關スル事ハ省キマシテ主トシテ呼吸器殊ニ肺結核ニ就テ働イテヰル チャ ジェール病院ノマリオン氏ノ腎臓特ニ腎臓結核ニ關スル手術ハ天下一品ダト激賞シテヰタ日本ノ外科醫モアリ 教授、 ラエン チック病院ノリスト氏、 サン、 アントアヌ病院ノブザンソン 教授等デアリマス。 ノハオピタル、ヅ、ラ、シ ヤリテノ

其他 レオトウラックス』卽チ肋膜腔ニ「パラフィン」油ヲ入レル肺結核療法ヲ發表シテヰル ŧ ッス氏ハ有名デアル結核ノ初期感染群ノ病理ヲ研究シタ人デ人工氣胸ノキ ユッス氏ノ器械ヲ造リ此頃ハ

醫科大學長ノローヂエ、 ラウガ前記 新內科全書ノ中ノ肺結核ヲ書イテキル リスト氏、 ノ人々ガ眞先ニ屈指サレルヤウデアリマス。 レオベルナール教授及ブリニー療養所長ノギナー氏ダケデ其他ニモ有名無名ノ猛者モヰル ヴィダル クロウド、 ルチュル ベルナール病院ニテ傳染病ヲ專攻シテヰル Letulle 等多士濟々デアルガ私ノ會ツタノハブザンソン教授、 ティシエ等三人ノ編輯シテヰ 事デア セルヂ

結核講習ガー年ニ三囘アッテー囘ハーケ月間デアル。 ゴイン氏ト研究シテヰル。 ソン氏ハ前記ノ新内科全書ノ呼吸器病ノ事ヲ書イテヰル、 先日ブリアン外相ガ肺炎ニ罹 タ時ニ 此頃ハ肺壊疽ト「スピロヘーテ」ト ハブザンソン氏ガ往診シテヰ ル事ガ新聞ニ出テ居タ、 ノ關係ヲ助手ノエチ

アッテ、「コンミテ、ナショーナール、コントル、ラ、チュベル 最近ハセ ルヂャ ルヂャン三氏ガ此講習ヲ主催シテ居ル。 ン氏ノ居ルオピタ jν ヅ、 ラ、 ヤリテデ六月ニ開カレテキ キュ ローズ」卽チ佛國結核撲滅協會 jv o 此講習ハ臨牀及豫防ニ就テノ補修講習デ 仕事デ、  $\nu$ オ jν

リスト、

セ

發表シタシカー及フオレスチィエ兩氏ニハ遂ニ會ハナカツタ。 報告ナル書ヲ著シテヰ セ 手ガ最モ盛ニ行 jν チ ・ヤン氏ニハ結核ト題スル二卷カラナル著書ガァリ又一昨年ハ呼吸器病ノ結核及他ノ疾患ノ臨牀及放射線 ハレ jν サウデアル。 「リピォドール」ノ本場ダケアツテ盛ニ用ヒテヰル。 **兎ニ角セルデヤン氏ノ講義ハ有名デアツテ講義ノ後ニハ** 因ニ「リピオドール」ニ就テ一九二二年ニ 3 v 新

#### 工 ンチック病院

四歲 デアタト 傳染ヲシタヴィ 名ヲ取ツテヰ 室 居 ラ ト氏及レオンベ タ、 ノ名ニハ有名ナ醫學者ノ名ヲトツテアルガ、此四大病室ハ、 工 子 ッ ラエンチックノ名ヲ取ツタノガ令云フラエンチック病院デパスツール研究所ヤチッケル 肚齢ヲ以テ多分肺結核デアツタヾラウデ死ンダト云ハレテヰル エン ノ事デアリマ ク iv o -子 ッ 子ッ jν jν 7 ラ ŋ 病院ニハ內外科、耳鼻咽喉科、 エン子ッ ナール氏ノ病室及診療所デアル。 ンヲ佛人ハコッポ以上ニ尊重シテヰル、 ケル病院デ聽診法ヲ發見シ其他多クノ結核ニ ク ハ云ハズモガナ、ヴィ 眼科、 リスト氏ノ主催シテキル病室ニハ四大病室ガアル jν マンニ 放射線科等ガアルガ而シテラエンチッ 昨年ヴィル 對 ラエンチック、 關スル研究デ有名デアル。 ス jν 尊敬モ大シタモノデアル、 マンノ誕生百年祭ガ巴里デアツタ 死スル前ノ三年間ハオピタルヅ、ラ、シャリテニ ヴィル マン、 此天才ハー八二六年ニ四 ポテイン、 病院ニハ比較的近イ處 ク病院デ私ノ見タノハリ 動物實驗ニテ結核 他 グランシ ガ非常ニ盛大 ノ病院デモ ヤー 病 病

其他 ポテイン及グランシャー等ノ知ラレタ名ガ病室ノ名トナッテキ w ノハ 慕シイ 気持ガ シ -シ タ。

各室トモ二十五人程ノ病人ヲ收容シテ居リ其他ニモ小室ガアル。

ス 氏ノ外來ハ Dispensaire Léon Baurgeois デアル、 此無料診療所  $\nu$ オ ンブル ジョア氏法 卽 チ 無料診療 關

11100

佛國ガ 一九一六年ニ制定シ タ 法律ニュ 盡力シ タ 人ノ名ヲ 取ツテヰ ıν ノデアツテ、 此無料診療所ノ創立ハー九ーー 年デア

= - 000	三二五〇〇	一九二(七)
四二〇	1七、六〇〇	一九一九
10	八,八00	九 一
ラ為シタル全数 ニラギオグラフィ	者敷シタル患	年度

°

此表ニテ示セル如ク隨分多數ノ患者ガ集ツテクルガ其大部分ハX寫眞ヲ取ツ

四二〇 テキル。

他 病院、 療養所其他トノ連絡ヤ其他ノ事ハ 無料診療所トシテ

ノ機能

ヲ

3

ŋ

發揮シ其費用ハ巴里市ノ「アッシスタンス、プブリック」ヨリ得テヰル。

治療トシテハ人工氣胸法ヲ盛 ガ 臨牀家トシテモ優レテヰ = 行ツテヰ ıν Þ ウデアル。 jν 0 其 他一 同氏 ハ毎火曜日 ハ 特ニ 二記スル ハ男子、 事モ 無イ、 毎水曜日ハ リ えト 氏ハ 女子患者ノ爲ニ診察ヲス 種々ナル醫學雑 誌 Æ 關 其時 倸 シ テ

自分自身デ病歴及病狀ヲ書キ止 メテ 丰 iv. 助手ガ 牛 w ノニ 助手ノ手ヲ借リナイ所ガ面白 く

才 テ 結核患者ノ家庭ノ小兒ノ隔離ヲラエン ルナール氏ハラエン 子ッ ク病院デモ病室ヲ持チ又外來ヲ行ッテヰ 子ッ ク病院ヲ本據ト シテ行ツテヰル iv, 同氏ハ結核兒ノ 豫防法及治療 他

主

ヲ得テ結核事實ニ盡力シテヰ 才 ンベルナール 氏ハ元來ハ衞生學者デアツテ醫科大學ノ ルノ デア ッ テ 「國際對結核「ユニオン」ノ幹事長デアル。 衛生學 ノ教授デアツタ , ガ 新二 ラ 工  $\boldsymbol{\gamma}$ 子 ッ ク 病院ニテ 教授號

佛國ノ結核事業

對 結核事業 ハ 直 接結核 對 ス w 事 業ト 般健康ヲ增進シテ結核豫防ニ資セ ン ŀ ス jν Æ 1 ŀ ノニ方面 ガ ア y, 衞生學 的

ニハ重要ナルモノデアル。

文部省研究生、 井上善十郎醫學博士ハ里巴ニ在ツテ直接是等ノ事業ヲ見學シ又調査シテ日本へ報告スル ŀ 1 事デアル 力

ラ同君ノ報告ヲ恬目シテ待ツテ欲シイ。

w

カ

ラ

私

唯一部分

ノミヲ略記シテ見ル。

!君ハ今迄華光ナル慝名ニテ醫事公論ニ佛國 衛生ト題シテ連續執筆シテヰ jν ガ ル中ニ 對結核事業デモ書カレ ル筈デア

ガ出來ナイノデアルガ此役所ニテハ實驗的ノ仕事ハ殆ド爲サズシテ、 デアツテ永續スル 辭職シテ此人ガ (一)勞働衞生省ニハ Office National d'Hygiéne Social ガアツテ此所ニテ結核ニ對スル仕事ニ携ツテキル。 Soncheur ト云フ今迄他省ノ大臣ヲ度々ヤツタ事ノアル代議士ガアツタ、 新二職ニ就イタ。 モノデナケレバ ナラヌト云フャウナ組織ヲ提唱シタサウデァ 因:醫學學士院 L'académie de Médicine ガ jv o 曾ツテ衞生事業ヲ統率スル 前大臣ハ四月ノ 私ハ未ダ行政方面ニ就ラ十分ノ理解 總選舉ニ 落選 數日前 Æ ノハ シ 専門家 こ大臣 タ カラ

(1 |) Comite National de Défense Contré la tuberculose, 佛國結核撲滅協會ナル半官半民的ノ機關ニ於テ結核事業ノ調査

此機關ノ組織ニ就テハ最近ニ一書ガ出ルサウデアル。

實行促進宣傳等ヲ行ツテヰル。

テ以來種々ノ П ックフエ jν ガ令ハ最早仕事ヲセズニロックフエラー財團ノ仕事ニ關スル事ハ此協會ガ引キツイデヰル。 ーラ 事業 財團 例へバ無料診療、 ガー 九一七年ニ佛國ニテ對結核事業ヲ爲ス爲メニ當時ノ紐育市衞生局長ビッグス氏ヲ佛國ニ 教育宣傳、 結核兒童ノ爲ノ設備、 各縣ニ於ケル結核事業へノ救助等ヲ爲シ ・タノデ 派遣

結核事業 因 culeuse ク IJ フェラー財團ノ行ツタ事ニツイテハ en France 1927 a ク 對シテ多大ノ刺戟トナツテキル。 フエ 1 財團ガ初メニ百萬弗ヲ寄附シ結局百八十二萬弗ヲ佛國 1925 ナル報告書ヲ書イテヰル。 A. Bruno n 勿論佛國ノ結核事業ハロッ Le Bole de la Mission Rockefeller dans L'Organisation antituber ŋ ノ結核事業ニ用 イタノデアツタ。 フエラー 財團ノ爲ノミニ出來タノデハナイ。 之が 佛國ノ

佛國結核撲滅協會ハー九一九年ョリ始リ、 選バレルモ Æ ノヲ 解決 ノト jν 此委員會ヲカル 地方縣ョ リ選出セラレタノヨリナル又恒久委員會ガアツテ、 メ ッ ŀ 之ハ四十八ヨリナル Conseil de direction 協議會ガアリ其委員ハ總會 y ス v, ロ ッ シ イ及レオ べ jν ナール氏等ガ行ッテヰル。 會計、 實行等ヲ議シ又結核問題 リ直 重要ナ 接

結核撲滅協會 ノ會員 ハ五千ニ 近イ、 委員會 ノ事務所長 ハア ıν ノウ氏デアツテ此下ニ衞生省ヨリ 給費ノ出テ 丰 ıν 醫師二人

社會醫學並統計

他二統計官

宣傳係リ等ガアル。

宣傳課ニテハ宣傳、 ハ委員會ノ收入トナリ委員會ハ宣傳ノ爲メニ三百萬「フラン」費消スルトノ事デアル。 教育、寄附金募集ニ盡力シテヰル今年ハ切手ハ千四百萬「フラン」賣レタトノ事デアル。其千分ノー

アル。是等ハ省略スル。 其モノ、費用ハ會員ノ出金、寄附、宣傳ニヨル收益(卽チ切手ヲ賣ル)等ニヨリ、又或時ハ市或ハ縣ヨリノ稅金ノ一部分 患者數及死亡數等ノ統計ハ此所ニテ詳細ニ知ル事ガ出來ル之ニョリテ政府ノ結核事業ニ對スル金員支途ニ便ズル。 ヨリナル(是等ノ關係ニ就テハ詳細ヲ知リマセヌ)此委員會ガ全國的ニ對結核戰ヲ示導スル他ニ各縣ニ又對結核ノ機關 協會

府ヨリハ六百萬。縣、 結核事業ニハ政府其他ノ支出シタノハー九二五年ニハ千四百萬「フラン」。一九二八年ニハ千五百萬「フラン」ニテ其中政 「 市ヨリハ九十萬「フラン」、卽チ日本ノ金ニテ約一千四百萬圓程使用サレルノデアル。

等ニ關シテ書イテヰル。 (イ)佛國ノ結核事業ニ就テハレオンベルナール氏及ゾブレ氏等ノ衞生講義ナル書ニ於テレオンベルナール氏ガ結核法律

ウム」ヲ置ク等ノ事ヲ制定セル法案等ガアル。 九一六年ノレオン、ブルヂ "ア法ハ「デスパンセール」無料診療所ニ就テ。一九一九年ノオノラ法ハ各縣ニ「サナトリ

- (ロ)尙レオンベルナール氏及ポア氏ノ著『佛國ニ於ケル對結核武器』ナル書ニハ書題ニ關スル事ガアリ又
- (ハ)巴里地方ニ於ケル結核戰ナル巴里市役所ヨリ出シテキル書ハ二冊ヨリナリ詳細ナル記述ガアル。

原名ハ次ノ如シ。

- (4) Cours d'Hygiene, Profféssé à linstitut d'Hyfiiene de la Faculté de Medicin de Paris Leon, Benard et R.
- (مر) Lá Lutte contre le luberculose dans La Region Parisienne
- (三)無料診療所、「ヂスパンセール」。

私ガ雑誌『大大阪』昭和三年一月號ニ書イタ佛國ニ於ケル診療所ノ敷ハ

· 一九一七年

二七一

九二〇年

四九八

九二三年

デアル、今年出版ニナッタ佛國結核撲滅協會ノ一九二六年度ノ報告ニハ次ノ如ク出テキル。

一九二四年

九二五年

五二八

五六九

アレ。比劦會ノ流計家モアヌ氏ノ話ニョレバー九二八年四一九二六年

無料診療所ノ規模ハ色々デアルガ大體ノ方針ハ(1)診察。(2)訪問看護婦。 デアル。此協會ノ統計家モアヌ氏ノ話ニョレバ一九二八年四月ニハ六〇七ニ増加シタトノ事デアル。 (3)他ノ機關タトへバ病院、 療養所等トノ

連絡、(4)家庭内豫防、(5)宣傳等デアル。

對シテハ返答ニ困ツテヰタ。 モアヌ氏ノ話ニョレバ投薬ハー般ニ爲サズ、シカシ人工氣胸ハー般醫師ニハ困難ナル故ニ診療所ニテ行フトノ事デアツ 佛國デハ未ダニ結核病牀ハ不足デアルカラ家庭ニ居ラチバナラヌ病人ニハ貧民タルモノニモ投薬セヌカトノ質問ニ

獨逸ノ結核相談所ニテハ治療ヲ行フ人ガ隋分多イガ之ニ反對ヌル人モアル、 訪問看護婦學校ハー九二五年ニハ十四ヲ數ヘテヰル。 佛國ニテモ同ジ問題ガアルヤウデアル。

因

(四) 結核病牀 (一九二六年)

五一私立療養所

四、〇二六

三三公立療養所

四、二三六

一五病院療養所

100

病院ニテ隔離セラレルモ

六、四〇〇

社會醫學並統計

陸軍病院其他

六〇八

合計

一八、二七一

全結核ニ對シテハ約三八、○○○牀デアル。

佛國ニテハ肺結核ニテ死スモノ一ケ年約八萬デアル。四•四人ノ 死ニ對シテ 一個ノ病牀、 換言スレバ百人ノ死ニ對シテ

二十三ノ病牀デアル。

英國,死亡率ハ十萬人ニ對シテ一八九〇年三〇三人,一九〇三年一九〇,一九二三年八九人デアッテ死亡率ノ減少ト共 ニ病牀數ガ增加シテヰル。卽チ現在ノ英國ニテハ大體ニ病牀ハ結核死百人ニ對シテ一○九牀デアル。

佛國ニハ尙此外ニ

一二、豫防院(高地)

七〇四

〇三、海岸豫防院

六、五四八

三五、海軍豫防院

三、八五四

ガアル。

(五)結核ニ關スル雑誌

一八八九年ニハ對結核事業 L. Oevre de la tuberculose ガアリ之ハヴイルマンヤノカルドニヨリ司合サレタ事ガアル。

學會モ開カレル Congrés National de la tuberculose ハー九二七年ニ第六囘ノガリオンニテ開カレタ。

對結核事業ノ機關雑志ハ

Revne de la tuberculose ヲ出シテヰル。

其他ニ前記ノ佛國結核撲滅協會ハ

Revne de phthisiologie médico-social

ヲ出シテヰル。何レモ二ケ月ニ一度ノ刊行デアル。

尚佛國ガ國際對結核「ユニオン」ニ**盡力**シテヰ jν 事 ハ 周知ノ事デアッテ、 オノラー、 カ jν **≯** "∣ ŀ オンベルナー y

ベザルソンノ五氏ガ佛國ヲ代表シテヰ

ス

ŀ

### 肺結核ノ治療

療法ハ盛デアル。 〇・二五瓦ヲ用フ、 氏及リスト氏等ニョレバ少量ヲノミ用フギナール氏ハ佛國製ノ「チイヲクリジン」ヲ○•○五。○•一。○•一五。 チグレ兩氏ノ「アンチヂヱーヌ メチリック」ヲ用フ、 リスト、 (二)人工氣胸ニテ肺ノ萎縮不可能ナル場合ハ「ドラロプラスチク」ヲ行フ。(三)特殊療法ハ重用視サレズ、アル人ハボケ及 セ jν ジヤ 最大量ハ○•二五デアル用法ニハ注意ヲ要ストノ事デアツタ、 ブザンソン、 ギナール、 アシャー等ノ 意見ニハ 大體大差ハ ナイガ、 舊「ツベルクリン」ヲ用フル人少シ。 大體ニ於テ多ク用ヒラレズ。 (四)「サノクリジン」ハギナール (一)人工氣胸ヲ盛ニ行フ。 ○ <u>-</u>: (五) 大氣

其他衞生食餌療法ニ重キヲ置ク。要スルニ變ツタ事ハナイ。

セイ驛カラ自動車デ行ケルガ六哩半程アル。三百五十人程ノ患者ヲ收容シテヰル多クハ輕症者デ茲ニテ死亡スル人ハ年 ニテモ小丘等ニアル 療養所モ澤山ニアル。 僅カ四人カ五人デアル。 モノガ多イ。 海岸ニハ肺結核以外ノ結核ノ療養地トシテベルリナドハ有名デアル。 醫長ハギナー氏デ醫師ハ全部デ六人デアル。 多数ノ中ニテ私ノ訪問シタノハブリニー療養所ダケデアル巴里ヨリ汽車ニ乘ツテド 肺結核ニハ山地、 其他平野

アル盟 體 ツテ説立サ テヰテセチオワー ズ縣一五○牀セー ヌ縣ヨリ八〇牀ノ費用ガ出サレ ル。 其他銀 行 會社等

リ費用ヲ出シテヰル。

光、浴場、X線室、 病牀モアリ又私費デ入院スル人モ 人工太陽燈室 齒科室、 アル入院料ハ二〇「フラン」デアル。 耳鼻咽喉科室、 其他新式ノ設備ガアル 所ノ地面ハ約十萬坪ニテ樹木ガ多ク消毒、 巴里デハ先ヅ此ブリニー

見ナサイト教へラレル。

治療トシテハ前記ノ如ク變ツタ事ハナイ。 所長ギナー氏ハ療養所ノ附近ニ家ヲ持チ患者ト共ニ 3 食事ヲシテヰ 佛

社會醫學並統計

國ニラハ他ノ機關ニテモ責任者ハ其機關ノ所內或ハ近クニ家ヲ持タシメルサウデアル。

城井獸醫學博士ノ話デハ屠殺場ノ場内ニ獸醫ノ住宅ガアルサウデアル。

總テノ機關ガヨク連絡ヲ保タレテアル事ハ學ブベキ點デアル。日本ニテハ此後對結核事業ハ追々盛ニナルニ違ナイガ各 前記ノ如ク治療法トシテハ別段變ツタ事モナイ、豫防法トシテモBCGニ就テハ他ノ國ト別段ノ差ハナイ。

事業ノ連絡ガ犬切デアル、現存ノモノニテモ出來ルダケ連絡ヲヨクスル事ガ緊要デアラウ。

BCGニ就テハ稿ヲ改メテ書キタイ。

### 抄

### 結核專門雜誌

### Beiträge zur Klinik der Tuberkulose

Bd. 68, H. 2/3 1928

### 1 結核肺ニ鑄金シテ氣管枝及ビ空洞ヲ觀

Rudolf Steinert

就キテ詳説セリ。 力性結核肺ノ鑄金像)巨大空洞、 空洞性結核癆竈發生上ノ考察、體位ニョル空洞内容流出、橫隔膜索引說(無 系ノ解剖及ビ蟒金像及ビ結核肺ノ蟒金像ニ分チ就中後者ニ就テハ硬度型結核 枝ノ型ヲ得テソレニ就テ觀察シタルモノニシテ内容ハ鑄金法術式正常氣管枝 著者ハ Loeschke ノ指導ニヨリ結核肺ノ氣管ニウッド氏金屬ヲ鑄入シテ氣管 氣管枝擴張性空洞、新鮮ナル吸引性空洞ニ

### 2 初期結核性肺病竈ニ關スル研究

Eberhard Schulze

(寺尾抄)

著者ハ十八例ノ小兒屍ニ就テ表題ノ如ク研究シテ Ranke ノ初期群ノ說ハ實 結核病理學ノ原則トスベシト說ケリ。 (寺尾抄)

### 3 成人結核ノ生育、瘢痕形成及再活動ニ

### 就テ 附 所謂鎖骨下早期浸潤說ニ對

抄 鍒

#### スル批判

H. Loeschcke

初マルト云フ説ハ絕對的ニ確證サレタルモノト見テヨイ。肺尖部再感染瘢痕 結論シテ曰ク、 サレタ白亞物が再活動ヲ初メルト被戮ヲ透シテ淋巴道ニ出デ近隣ノ細葉ニ少 テ經過シテ分解シ空洞形成ヲナシ或ハ初期窓トシテ圓形ニ被雞サレル。被囊 叉ニ吸入サレルヲ規則トスレドモ分枝ヲ飛越エ又ハ吸入物が遙ニ隔リタル處 シタルハ Assmann ノ所謂「饋骨下早期浸潤」ナリ。傳播物ハ直ニ第一氣管枝 シテ氣管枝樹ヲ侵スモノデアル。大塊ヲナセル傳播結核ヲ臨牀的ニ云ヒ表ハ 良性ヲ保チナガラ全肺ニ首尾方向ニ擴ルモノナレドモ惡性ノモノハ大塊ヲナ 腰~結核が來り又ハ傳播結核ノ像ヲ形成スル場合ニハ小塊ヲナシ十數年間ニ クデアルガタド各像間ノ關聯ノ構成が本質的デアツテ末梢前小氣管枝ニ特 細葉内ニ増殖性ヲ呈シ乾酪肺炎狀デハナイ。更ニ進ンダ個々ノ像ハ旣知ノ如 ハ所謂 Apicale Atelektase ニー致シテソノ再感染ノ經過ハ少最感染ニー致シ 襲ヲ有スル晩期空洞ヲ形成スル。 量ノ菌ヲ排出シ又ハ所屬氣管枝中ニ破レテ大塊性傳播結核ヲ將來シ且ツ緩被 ニ移ル事が例外的ニアル。大塊ヲナセル傳播結核ハ細葉性乾酪肺炎鑑ヲナシ 臨牀研究家ノ新方面ニ對スル努力ノ結果成人結核ハ肺尖部ニ (寺尾抄)

### 4 肺結核及肺腫瘍合併症ニ對スル補遺

W. Landau

七十八歳ノ成人か結核ニ肺腫瘍ヲ併發セルモノニ就テ臨牀上X線的所見及剖

(寺尾抄)

### 5 肺結核治療ニ際シ兩側ニ氣胸ヲ施行ス

檢所見ヲ詳逃セルモノナリ

1 二〇七

#### ル 問題ニ就テ

J. A. Kerzmann

程成績へ良好ナリ。十三、治療へ能ウベクンバ療養所ニテ安靜ニ施行スベシ。 症ニョリ左右サル。十二、氣候的及榮養狀態又ハ施術間ニ於ケル看護が好キ 以上ニ昇ゲザル注意ヲ要ス。七、Pneumopleuritis ニ耐ヘタル後ハ高度ノ陽壓 性氣胸療法ノ禁忌トナラズ。六、兩側氣胸療法ニハ呼息ノ時ニモ陰壓トシ零 續セルカ或ハ頑固ナル發熱等ノ場合ニ施行ス。五、 ザルコト或ハ全肺ニ小病竈が散在セルモノナルコト。 修ムルコトヲ得。二、兩側氣胸療法ヲナス場合病機が各肺ノ一葉以上ニ亙ラ 通院療法ハ肋膜腔中ニ都合ヨク空氣が入り且ツ臨床上アル平衡ヲ得タル者ノ ルコト長ケレバ長キ程兩側氣胸療法ノ效果ハ落シ。十一、治療成績ハ肺結核 合初メテ行フベキモノトス。九、患者ノ経濟狀態が愛惜療法ヲ受クルヲ許サ 氣胸療法ヲ施スハ特ニ適當ナル處置ナリ。四、兩側性氣胸療法ハ肺出血か繼 氣胸療法ヲ受ケタル間ニ他肺ニ新竈ヲ生ジ又ハ活動性トナリタル場合ニ兩側 ノ病理解剖學的型、治療始メ ノ個體ノ抵抗力、治療前又ハ治療中ニ起ル 合併 ·ル時吾人ハ兩側氣胸療法ヲ決行スベキナリ。十、一側肺が氣胸療法ヲ受ク 加へ得。八、兩側氣胸療法ハ療養所、 兩側氣胸療法ニ於テハ弛緩及部分的壓迫 Selcklivkollaps ニヨリテ良效ヲ 氣候療法等ノ愛惜療法ガ無效ナル場 空洞一箇存スレドモ兩側 三、一肺が相當長期間 Ŧ, 共二抄錄二適セズ

# 癒著烙離及造胸手術ニ就テノニ三經

(寺尾抄)

ニ行フベシ。

驗

6

Aef Gullbyrng

### 7 自然氣胸ノ特別ナル例ニ就テ

1 二 0 八

G. Wiele

(寺尾抄)

### 8 結核菌ノ者沸発疫元ノ発疫影響ニ就テ

R. Torikata d. Y. Imamaki

ル。六、「ワクチン」ノ(「チフフ」「コレラ」「デフテリア」菌等)Zentrifngate 中ニ 狀表皮細胞組織ノ原形質內ニ於テノ免疫元的物質ノ腸外消化ノ結果ト考ヘラ リ計算シタル生存日敷ハ試験動物ニ就テ質際觀察シタル所ト可ナリ一致ス。 タル免疫度ハ煮沸免疫元注入量ト共ニ高マル。四、煮沸免疫元ノ使用量ニコ 對シテ湝シク免疫サレタリ。三、箕験結核感染試験動物ノ生存中ニ賦與サレ 肺ニ免疫的前處置ヲ施シタル他ノ臟器ハ正常對照動物ノ夫ニ比シ結核感染ニ 核菌ノ煮沸免疫元ニョリテ寳験的ニ局所免疫ヲ得タルヲ示ス。二、コノ際右 內ニ注射セパ高度ノ人工的結核感染ニ對シテ著シク refraktär トナシ得ルニ反 核菌ノ食鹽水浮游液ノ或ル免疫性效果ト云フモノハ其中ニアル不溶性即蠶喰 且ツ後者ニ比シ容易ニ蠶喰サルレバナリ。 シ生 / 免疫元ヲ肺内ニ注射シタル動物ニハ免疫ヲ得ラレザリキ。コノ事ハ結 一、結核菌ノ煮沸免疫元 (B. T. B. K. I. bzw. T. B. K. I.)ヲ海猽ノ右肺實質 スルモノナリ何トナレバ前者ハ Leukopenie ヨリモ Hyperleukocytose ヲ先ニ テ受働的免疫元トシテ價値少キモ能働的免疫元トシテハヨリ大ナル價値ヲ有 際溶解シタル微生物質(Vaccincentrifngate)ハ微生物體(Vaccinsediment)ニ比シ ハ其中ニ含有セル Mikrobensedimente ヨリハ免疫效果大ナルモノアリ。ソノ 所謂免疫元ヲ注射シテカラ(局所或ハ全身)免疫ヲ獲ル事ハ喰細胞特ニ網 弋 簡單ニ殺滅シタル又ハ生活結

ヲ生ゼシメル際ニハ煮沸免疫元ハ生ノモノニ比シ蓍シク毒性弱シ。 量ニ於テハ煮沸免疫元ハ生ノ免疫元ヨリ大ナル免疫ヲ賦與ス。等量ノ免疫力 應補體結合喰菌等ニ就テハヨリ大量ノ免疫力ヲ得ラル、ナリ。十、最少致死 免疫元性ヲ有ス。卽チ煮沸シタルモィハ生ノモノヨリハ毒性少ク且ツ沈降反 困難ナル結核菌ソノ モノョリモ 可溶性結核菌成分が 重大ニ 考ヘラルベキナ 生ノ溶解シタル微生物質ニ對シテ煮沸シタルモノハ質的ニヨリ良キ

(寺尾抄)

### 9 肺結核ニ於ケル赤血球沈降反應マテフィ 反應及アルチット氏核遷移

E. Kritschewskaja u. R. Finkelstein

目標トナル。 氏ノ診斷學的價値ナシ。六、何レモ繰返シ血液檢查ヲナシタル時ニノミ豫後 標ナリソハアル程度迄平衡ノ破レタルヲ示ス。五、上記反應及ビアルチット 氣ノ重サニ一致ス、四、 ニアル患者ノ免疫學的狀態ニ特有ナル暗示ヲ與フ。ニ、コノ反應ノ程度ハ病 赤沈反應及マテフィー氏反應ハ結核ニ對シテハ非特異性ナレドモ各病期 弋 度々血液試驗ヲ行ヘバ醫師ハ治療方針ヲ定ムルコトヲ得ベ アルチットノ核遷移ハ上記ノ反應ト共ニ重要ナル目

### 10 非結核人ニ於テ舊「ツベリクリン」ヲ以 テ前處置シタル後ニ出現スル非特異性

(寺尾抄)

「ツベルクリン」反應

J. Hämel

十二人ノ非結核人ニ就テ舊「ツベルクリン」ヲ前處置トシテ皮下ニ注射シ(各

抄

鍒

「ツベルクリン」陽性反應ハ其臨牀上症候ャ舊「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射ス 量一○○○瓱)外觀上ノ「ツベルクリン」過敏性ヲ起ス コトヲ得キ。然シコノ 應ト比較スルコト能ハズ寧ロ蛋白質過敏性ヲ呈スルモノナリ。 ルモ完全ニ無反應ナル點及ソノ組織學的構成が決シテ眞ノ「ツベルクリン」反 (寺尾抄)

### 11 肺結核ニ於ケル形態學的血像試驗

響ヲ容易ニ觀察サレ得ルナリ。 臨牀上ニ容易ニ診斷ヲナシ豫後的又ハ治療上ノ個性或ハ特異性非特異性ノ影 見ヲ得。白血球形態學的變化ニ就テノ著者ノ 理想曲線 (Idealkuve) ヲ用 フレ 缺クベカラザル重要々件トス。是等ノ補助ニョリ各症ノ深奥ナル生物學的知 肺結核ニ於テ診斷豫後治療上ニ白血球像ヲ補助手段トシテ檢査スル事ハ必要 バ肺結核ノ完全ナル經過(初感染、死、治癒)中白血像所見例ニョリ解剖學的又

### 13 低地及高山ニ於テ結核患者ノ基礎代謝 ト沈降反應トノ關係ニ就テノ比較研究

(寺尾抄)

呼 山ニ居ル場合ニ其基礎代謝ハ減少ス。又輕症患者ハ重症患者ヨリハ基礎代謝 中止ノ時間ヲ比較研究シタル所ニヨレバ同一患者が低地ニ居ル場合ヨリモ高 低地 Basel 及高山 Davos ニ於テ結核患者ノ基礎代謝沈降反應及隨意的呼吸 ノ限度ハ大ナリ。 氣候療法ハ刺戟療法ニアラズシテ寧ロ愛情療法ナリ。 吸中止時間ハ高山ニ於テハ短縮サル。著者ノ研究ノ結果ヨリ考フレバ結核 赤沈反應モヤハリ基礎代謝ト一致シテ高山ニテハ減少ス。

### 13 慢性肺結核治療中/Gerson 式榮養法

(寺尾抄)

Hans-Ullrich Ritschel

體重ヲ増加スルモノナレドモ他ノ樊養法ト同ジク病勢惡化セルモノハ之ニョ 與フルモノナリ、 berrtan ヲ加ヘタルモノニシテ體重「プロキロ」ニ四〇乃至五〇「カロリー」ヲ 加ヘシ野菜及果實ヲ豐富ニ混ジテ更ニ無機鹽類ヲ加ヘタルモノニ Phosphorle-Gerson 式樂養法ハ脂肪ヲ多量ニシテ炭水化物ヲ少ク、之ニ充分ナル蛋白質ヲ・ リテ好轉セシムルコトヲ得ズ。又他ノ蛟養法ニ比シテ高價ニ過グ" 此療法ニョレメ肺ノ「カタール」性症狀ハ減退シ菌敷モ減ジ

左右セラル。

(寺尾抄)

(寺尾抄)

### 14 骨及關節結核ニ於ケル Costa 氏反應

M. M. Altschnler

前ニハ屢~陽性ニアラハル。四、臨牀上所見ヲ總合シタル所見ニ於テ本反睢 症ノ骨及關節結核ノ大多数ハ强陽性又ハ陽性ヲ示ス。三、臨牀上重症ニ陷ル テ陽性ニ現ハル、ヲ以テコスタ氏反應ハ特異性ニアラズ。二、重症又ハ中等 一二五例ノ骨及關節結核患者ニ就テ觀察シタル處ニョレパ、一、他ノ疾患ニ 高キコトニヨリテ考フルニ幾分赤沈反應ノ短ヲ補ヒ得ベシ。(寺尾抄) 骨及關節結核ノ診斷的意義ヲナス。五、術式ノ簡單ナルト一致セル際陽性率

### 15 腎臓結核補遺特ニ手術療法ノ早期診斷 及ビ適應症決定上ノ注意

J. Steiger

著者ハ療養所患者總數一一 二二名中二•一%ニ 於テ 又四一八名 / 開放肺結核 性結核ノ病像ニ屬シテ居ル。著者ノ敷ニ於テハ結核性脊椎炎ニ屢~腎臓結核 患者中二•八%ニ於テ腎臟結核ヲ診斷シ得タ。泌尿生殖器結核ハ主トシテ二次

> ヲ決定セムトスルハ餘リ良好ナル成績ヲ得ラレナイ。腎臟摘出ノ適應症決定 ハ肺患ノ側ヨリ見レバ個性的ナリ。施行ノ時期ハ肺及腎臟ノ活動症狀ニヨリ 的尿中ノ白血球所見ヲ以テ重要ナルモノトスル。尿ヲ動物試験シテ腎臓結核 ヲ合併セルヲ見タ。卽三九例中五例ノ腎臓結核アリキ。早期診斷トシテハ無菌

### 16 外科的及皮膚結核ノX線療法上ノ危險

ニ就テノ報告(蓄積害ニ對スル補遺)

Franz M. Groedel u. Heinz u. Lossen

タル例ヲ詳述シテ愼重ニ治療シテモ尙且危險ヲ防止シ得ザルヲ嗟嘆ス。 顔狼瘡,腔淋巴腺結核,腕關節膝關節足關節等ノ結核治療ニン線火傷ヲ起シ

### 17 結核ノ家族內傳播研究法

A. M. Glusmann

(寺尾抄)

著者へ結核家族ノ系譜ヲ作リテ結核救護事業上多大ノ便宜ヲ得且ツ生物學的 ノナレバ更ニ多敷ノ材料ヲ得ベク努力シテ居ルト。 ニ見テ家族内傳播研究法ハ複雑ニシテ體質遺傳的要素ノ役目ヲ觀察シ得ルモ (寺尾抄)

18 咳嗽ノ徴候學ニ就テ

T. Sternberg

抄錄ニ適セズ。

### 19 肺結核ニ於ケル Arsen-Duploferin 及 他ノ二三類似ノ砒素鐵劑ニ就テ

(岡抄)

砒素劑ニ比シテ著シキ利益ナシ。且ツ其服用ニ當リ白血球ニ對スル影響ヲ認 五、亞砒酸○•○○一ヲ含有セル薬劑ニシテ肺結核患者ニ對スル效果へ從前 其將來ノ作業能力ヲトスルニ豫後判定ノ見込違ナカリキ。 ムル能ハザリキ。尙蓍者ノ療養所ニ居ル看護人ニ就テ見ルニ白血球像ヲ以テ Arsen-Duploferrin (A. Wülfing: 製)ハ鐵〇、〇〇六五、「ヌクレイン」酸〇•〇〇 (寺尾抄)

# Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 50, H.

#### , 1928.

### 20 肺結核ノ經過型(Verlaufsformen)ト其

救護上ノ意義

Th. Rehberg u. W. Zürcher (Tilsit)

護ノ意義ヲ考案シ、各型ヲ通覽シテ早期浸潤ハ救護上最モ意義アルモノニシ 腦膜等ノ結核ヲ主トシ、之レニ肺結核ヲ合併セルモノヲ附加セリ。最後ニ救 加へ、第三期ニ増殖性纖維性肺痨、早期浸潤、空洞性二次結核ヲ算シ其他漿膜、 ニ亙リテ得タル二百例ヲ分類シ其救護上ノ意義ヲ考察セリ。著者等ハ肺結核 著者等ハノイマン氏及ビバール氏等ノ分類ニ範リ、一九二七年三月ヨリ十月 播種性第二期結核、「ツベルクロソイド」(Neisser u. Braeuning)、粟粒結核ヲ ノ經過ヲ三期ニ分類シ、其ノ初期ハランケ氏ノ初期變化群ノ時期ニシテ、其 一例ヲ示セリ。第二期ニ氣管枝淋巴腺結核、第二期浸潤、肺内肺門部結核、 ナリトス。蓋シ著者等ハ結核ノ感染ハ各期ヲ通ジテ重感染ヲ起シ、又之レ 速カニ之レヲ診定シ、治療スル事ハ豫防策上ヨリ觀ルモ最モ重要ナルモ ノナリトセリ。

ヲ主要ナルモノト考フルが故ナリ。 21 結核患者ニ於ケル血液瓦斯ノ生理竝ニ

### 病理學ノ研究

#### 第一報 一般的觀察

Fritz Pomplun (Görbersdorf)

ヲ用フ。壓力計ニハ石油ヲ用ヒ、其洗滌ニハ「エーテル」ヲ使用ス。活栓其他 ヲ同時ニ計測ス。酸素ニハ「フエリチアニード」法ヲ、炭酸五斯ニハ酒石酸法 法上ニハ酸素炭酸瓦斯合併吸入療法ヲ可トスト考ヘラル。 シ、炭酸瓦斯增加(五○乃至六三容量%)セリ。氣胸患者ニハ變化ヲ見ズ。瘀 メズ、重症結核ニテハ動脈及靜脈血共ニ酸素量減少(十例七乃至一二容量%) リテ増減ヲ定ム。其結果一般ニ血液ノ色ハ吸收セラレタル酸素量ヲ推定セシ 均値ハ酸素一五容量%、炭酸瓦斯五○容量%(零度七六○糎)トシ、之レニョ 及炭酸五斯ヲ測レリ。例敷四六(內女性四三、男性二、男性小兒一)。健康平 ノ塗脂ニハ「パラフィン」ヲ以テセリ。動脈竝ニ靜脈血ヲ用ヒ、共兩者各酸素 バークロフト氏瓦斯分析器(血液一竓)二基ヲ用ヒ、血液中ノ酸素及炭酸瓦斯 (岡抄)

## 22、小兒期ニ於ケル結核性肋膜炎

Hans Knauer (Breslau)

ナル條件ノ他、 ゼロジチス」二例ヲ算ス。豫後比較的良好ナリ。著者ハ診斷ニ際シ、他ノ種々 例ノ五分一ニ相當ス。四乃至八歳ニ多ク、右側一四、左側九、兩側一、「ポ 生後四ヶ月乃至十二年ノ小兒ニ於ケル結核性肋膜炎二六例ノ報告ナリ。 血液ノ多核白血球減少、淋巴球比較的增加ハ特ニ重要ナルモ

缉

### 23 肺結核ノ豫後ニ關スル喀痰檢査、赤血球 沈降速度及ビヂエルロシー氏 Plasma-

## Kolloid-Labilisät ノ價値ニ就テ

J. v. Szabóky (Budapest)

リ。其他ノ點ニ於テハ菌形ト豫後トノ間ニ一定ノ規則ヲ見出サズ。但ムフ氏 培養菌型トハ常ニ同一ナルヲ知レリ。菌形短カク均等ナルモノハ豫後不良ナ 喀痰檢鏡ハ十年間干例ニ就テ四干囘行ヘルモ、豫後ノ比較ニ加ヘタルハニ五 顆粒ノミノモノハ良性ナリ。 二例ナリ。此内四二例ハ入院患者ニシテ菌培養ヲモ行へリ。喀痰内菌型ト其

殖型ニハ一三〇粍ノモノアリ。 重症患者ニ於テハ其病症ノ重ルト共ニ速度大 トナルモ、輕快シ行ク場合ニハ之レニ比例シテ復舊スル事ナシ。 一•六%へ五粍、四七•四%ニ十粍ノモノアリ。滲出型ニテハ變化ヲ見ズ、坍 赤血球沈降速度ハー一四例ノ患者ニー七六囘行へり。全部女性患者ナリ。八

傳播ノ度ヲ標示ス。

「アウストロックング」ノ第三以下ナルモノハ非活動性ナルモノニシテ、第六 内二囘以上行へル患者五六例ナリ。ホーフマイステル氏陰「イオン」列ニ於テ、 Gerlócy 氏 Plosmakolloid-Labilitātsreaktion ヲノ行ヘルモノ九六例一九○囘、 ニ達セルモノハ常ニ重症ナリ。此反應ハ結核ノ診斷ニハ使用シ得ザルモ、豫

### Vol XVII, No. 3, 1928. The American Review of Tuberculosis.

後測定ニハ赤沈反應ヨリモ價値多シ。

(岡抄)

# 24、從業員ノ胸部レントゲン線診斷ノ價値

H. H. Fellows and W. H. Ordway

ニューヨーク、「メトロポリタン」生命保險會社ノ黔負ナル著者ハ、同社從業 ル専門家ノレントゲン線診斷ニョリ、潜伏性肺結核ヲ發見シ得タル例ヲ報告 **員ヲ診察シ、理學的診斷法ニヨリ疾患ヲ診斷シ得ラレザリシ者ニテ、熟練セ** 従業員ノ健康診断ニレントゲン線診断ノ價値多キコトヲ説ケリ。

(矢部抄)

### 25 結核患者ノ白血球所見

R. S. Cunningham und Enda H. Tompkins

變化ノ程度ハ、臨牀的病勢ノ輕重ノ度ト平行シ、病竈ノ解剖學的、擴大及ビ 一、結核患者ノ白血球所見ハ、結核患者ノ診斷及ピひ後ノ推定ニ效果アリ。 二、單核球ノ敷ハ結核ニ於テー般ニ増加シ、 喰細胞能が高マリ、 而シテ此ノ

る。 的ニ表示ス。而シテコノ此ハ、結核ニ於テ一般ニ増加シ、臨床的病勢ト平行 四 三、淋巴球ハ、抵抗ノ指標ニシテ、ソノ敷ハ、抵抗ノ増加ト共ニ比例ス。 單核球ト、淋巴球トノ比ハ、病竈ノ擴大ト、抵抗ノ程度トノ關係ヲ數字

示ス。 五、單核球ト淋巴球トノ敷、 及ビソノ比ヲ示セル斜線ハコノ關係ヲ簡明ニ表

低シ。 六、淋巴腺結核患者ノ血液ハ、臨床的所見ニ比シ、單核球價高ク、淋巴球價

七、小兒結核患者ノ血液ハ、臨牀所見ニ比シ、單核球價高ク、淋巴球價低シ。 結核性滲出液ハ、淋巴球、單核球共ニ多キ特殊細胞反應ヲ示シ、單核球 類上皮細胞ノ形ニ近ヅク傾向ヲ有ス。

ጚ 「ツベルクリン」反應ノ陽性度ハ、血液所見トハ無關係ナリ。

(矢部抄)

### 26 結核ノ免疫ト過敏性トノ關係

Henry Stuart Willis

從ッテ、皮膚過敏性減少ス。 毒力弱キ結核菌ヲ以テ、 感染セシメタル「モルモット」ハ、感染ノ鎭靜ニ

二、感染後二ヶ年ニ至ツテ、是等「モルモット」ハ、普通反應量ノ「ツベルク

リン」ニ對シ皮膚反應ヲ呈セズ。

三、感染後二十七ケ月ニ至リ普通反應量ノ五倍量ノ「ツベルクリン」ニ對シ陽

四、皮膚過敏性ハ、斯ノ如ク減少シ、 性反應ヲ呈セルモノ一匹アリ。 寧ロ缺損セル狀態ニアルニ拘ラズ、 怒

高度ナル特異免疫ヲ示セリ。 染後三〇ヶ月ニ至レル「モルモット」ニ弧毒ナル結核菌ノ再感染ヲ行ヘルニ、

りゃ。

五、結核ノ免疫ト過敏性トノ關係ニツキ。

ノ可能性及ビ如斯潛在期ニ於ケル再感染ノ效力ニ就キ、論義セルニ、此ノ質 特異ニ、過敏性、 若シクハ免疫各個ノ潜在ノ可能性及ビ兩者同時ノ潜伏

験ハ、

敏性ハ、新シキ再感染ニ際シ、 七、古き、 治癒セル感染ニ於テ、殆ンド證明シ得ラレザル程度ニ減少セル過 直チニ蝨ノ高キ程度ニ迄恢復シ、

シ、

再感染ハ恐ク、豫告セラレタル免疫ヲ復活セシムルモノナルベシ。

(矢部抄)

30

### 27 三年間吸入 セシメタル 硅素粉末丿「モ

抄 鍒

### ルモッ ト」ノ肺臓ニ及ボセル影響

Henrp Stuart Willis

肺組織へノ影響ハ意外ニモ、極メテ輕微ニシテ、是等「モルモット」ハ、何等 主トシテ炭化硅素ヨリナル粉末ヲ、三年間「モルモット」ニ吸入セシメタルニ、

28 硅素粉末ヲ吸入セシメタル「モルモット」 人工感染ニョル肺結核ニ感染シ易キ素質ヲ呈セズ。

(矢部抄)

## ノ肺臓ニ於ケル瘤狀物ニ就テ

Henry Stuart and Paul Brutaret

炭化硅素ノ粉末ヲ長期吸入セシメタル八○匹ノ「モルモット」ノ内、七匹ニ於

肺ハ、 テ, 氣管枝粘膜ニ瘤狀構造ヲ呈セルモノヲ見タリ。 粉末ニョル長期ノ刺戟ニ拘ラズ、期待シタル程結締織ノ増殖ヲ認メザ

如斯瘤狀物ハ、 他ノ實驗ニ於テハ、「モルモット」ノ肺臓ニ發見シタルコトナ

(矢部抄)

#### 29 Hamster 鼠ニョル、 結核診斷

John II. Korns and George Y. C. Lu

北京合同醫學校ニ於ケル著者ハ、結核ノ箕驗動物トシテ、Ilamster 鼠ヲ推奨

結核自然感染ノ少キコト、喰菌細胞ノ明ナルコト、白鼠ヨリモ感染シ易

キコト、「モルモット」二比シ、 結核菌ノ檢出容易ナルコト等ヲ與ゲ、 コノ鼠

(矢部抄)

ヲ以テ、結核ノ診斷ニ供シ得ベシト云ヘリ。

肺結核ニ行ハル、外科的安静療法

Stanley R. Maxeiner

\_ \_ \_ \_

結核專門外雜誌

33 鏡檢上結核菌陰性喀痰ヨリノ結核菌培

養ニ就テ

(Centrall Matt f. Bak. 108 Band. Heft 1/4) Ignaz Schiller

著者ハ特殊培養基ヲ考案シ之ニ鏡檢上陰性喀痰ヲ混ジ孵卵器内ニ入レ置クコ ト二十四時間乃至四十八時間ニシテ染色標本ヲ作ルヤ陰性喀痰中結核菌ヲ檢

培養基ハ「グリセリン」七五•○竓「グルコーゼ」二•○乃至五•○瓦水二五•○竓 出シ得ルモノ相當ノ%ニ昇ルト云フ。

ヨリナリ之ハ無菌ニシテ約一ケ月ノ使用ニ堪ユ。此ノモノト喀痰トヲ等量ニ

混ジテ培養ス。

洗滌シ石炭酸「フクシン」ニテ蒸氣ノ出ル迄敷囘加溫シツ、染色スル時ハ確實 ニ塗抹シ緩ニ火焰上ニテ「ク゚リセリン」ヲ蒸發セシメ後固定シ之ヲ素沸水ニテ 染色ニ際シ「グリセリン」多キが故ニ多少困難ヲ感ズルモ「オブエクトグラス」

ブザンソン氏ノ「ヒドロリーゼ」ニテ蔚陰性ナリシモノ、中五例ノ陽性ヲ得タ 著者ノ箕鵌ニョレバ本法ニ ヨリテ 鏡検上陰性咯痰中三三•〇%ノ陽性率ヲ得

ニ染出セラル。

質存在スルモノナラン。刄「ヒドロリーゼ」ニテー且結核菌不明ニナリタルモ 普通結核菌培養基ニ濃厚ナル「グリセリン」ヲ加フル時ハ菌ハ發育セザルニ本 ノモ再ビ本法ニョリテ抗酸性結核菌ヲ見ルニ至ル。一時フォンテ氏ノ不可 視 培養基ニ結核菌ノ速ニ發育スルコトハ恐ラク喀痰ノ中ニ結核菌發育ヲ促ス物

著者ハ、肺結核治療ニ於ケル最新ノ進步トシテ、外科的治療法ニ就キ、

一、橫隔膜神經摘出

二、病竈部ノ直接壓縮

イ、 加膜外肺臓剝離

肋膜內肺臟剝離

三、病総部及胸廓ノ直接縮小

部分的胸廓形成術

病竈部及胸廓ノ間接縮小

肋膜外胸廓形成術

ノ各項ニ就テ、適應症及ビソノ術式ヲ述ベタリ。

(矢部抄)

31 結核患ニ於ケル非結核性疾患ニ對スル 外科的治療ニ就テ

Stanley R. Maxeiner

著者、 トレル例ヲ報告シ、結核患者ニモ、屢~非結核疾患ノ合併スルコト、 結核患者ナルが爲メニ、蟲樣突起炎ヲ見逃サレ、穿孔シテ死ノ轉歸ヲ 結核專

門醫モ、非結核疾患ニ熟練セル必要ヲ說ケリ。

32 結核患者ノ勞働許容範圍ニ就テ

Grant Thorburn

著者ハ、 トニ就キ意見ヲ述ベタリ。 治癒期ニ向ヘル患名が、 療養所ヲ退所セル後ノ運動量ノ大切ナルコ

(矢部抄)

二四四

性濾過性型ヲ取ルモノナラント想像セラル。

(原澤抄)

### **34** 顯微鏡的結核菌證明法ニ就テ

Kappeller (Ehenda)

著者ハチールチールゼン、 優秀ナルコトヲ證シタリ。 チールチールゼン氏法 へ 四十八例ベンデル氏法 ハ 五十例コンリッヒ氏法及 **ヶ結核菌染色法ヲ三百三十八例ノ喀痰ニ就テ試験シ各方法ノ優劣ヲ檢セシニ** ュルテーティゲス兩法ハ共ニ五十三例ノ結核菌陽性成績ヲ得後二者が最モ ベンデル、コンリッヒ、 シュルテーティゲズ四氏 コリ大體ノ毒力測定ヲ爲シ得。

ン」法ニヨリテ集菌セルモノトヲ比較セシニ前者 ハ 二十六例後者ハ二十八例 又略族百四十九例ニ就テ唯塗抹標本ヲ作リタルモノト之ヲ「アンチフォルミ ノ陽性ヲ得タリ。 (原澤抄)

### 35 核結菌毒力測定法ニ就テ

B. Lange u. R. Lydtin (Ebenda)

ヲ知リ之ト同時ニ海猽ノ皮下ニ接種シ初感染部局所淋巴腺腫脹發生時期ニ注 先ツ稀釋セル結核菌液ヲ卵血清培養基ニ植エ發生「コロニー」ニョリ其ノ菌敷 ラル。結核菌モ亦海猽ヲ以テ同一方法ニテ其ノ毒力ヲ知ルコトヲ得。 菌ノ毒力ヲ檢スルニハー般ニ其ノ最小感染量又ハ最小致死量ニ依リテ測定セ

解剖 ノ同一量ヲ注射セル動物ニ於テ生存時及撲殺時ニ於ケル結核ノ輕重ニヨリ 意シ又臨牀上ノ經過ヲ觀察シ三ケ月後ニハ全動物ヲ殺ス。 ニ際シテハ血道傳染範圍淋巴腺ノ乾酪變性程度ヲ檢ス。卽チ異レル菌株

テ

ナリ。

然シナガラ張力ヲ最小感染量ヨリ判定スルコトハ余等ノ贄成シ得ザル所ニシ 各菌株ノ毒力ヲ知ル。

> 菌量ノ異レル四菌株ヲ接種シ其ノ初感染竈及局所淋巴腺腫脹ヲ檢スルコトニ が爲メニ同一動物ニテ四肢ノ近クニー菌株ノ異レル四菌量ヲ注射シ又ハ同一 又毒力檢査ノ上ニ困難ヲ感ズルハ動物個體ノ抵抗力ニ差異アルコトナリ。 テ海猽ノ如キ結核感染ニ對シ過敏ナル動物ハ能ク一個菌感染ヲ行フ。 ニー菌株ニ對シ二十頭以上ノ動物ヲ使用セザルベカラズ。此ノ缺點ヲ補ハン

吾人が結核ノ實驗ニ於テ菌ノ毒力ヲ精知スルコトハ肝要ナルコトニシテ强力 及弱毒ノ標準菌株ヲ保存スルコトヲ要ス。 36 人類及動物ニ於ケル先天性竝ニ後天性 (原澤抄)

結核免疫ニ就テ

多クハ個體が生存中ニ得タルモノニシテ殊ニ人類ニ於テハ人種又ハ其ノ土地 人類ハ勿論動物モ其ノ殆ンド凡テハ結核感受性ニシテ其ノ抵抗力ヲ有スルハ

(W. K. W. Nr. 19. 1928)

Ernst Löwenstein

ノ氣候風土ニ關スルコトナシ。

せり。 而シテ著者ハ眞ノ結核免疫ハ結核感染個體ノミが有スルモノナルコトヲ主張 即チ免疫ヲ起サシムルハ生菌ノミが完全ノ目的ヲ達シ得ルモノナリト

云フ。

死菌ヲ以テ生菌ト同樣ノ免疫ヲ起サシメントシテ多數者ノ研究シツ、アル所 然レドモ弱毒結核菌サヘモ動物ニ於テ接種後長時ノ後結核ヲ起スコトアレバ

ニ「フオルマリン」ヲ用ヒ又ハ敷年間培養菌ヲ放置シテ此ノモノヲ「ワクチン」 著者ハ一九○二年結核菌ニ生化學的變化ヲ起サシムルコトナク之ヲ殺ス爲メ

ナリ。最後ニ著者ハ死菌免疫トシテ「デルモッピン」ヲ推賞セリ。タルコトアリ。本「ワクチン」ノ製造ハ馥雑ニシテ今尙ホ研究中ニದスルモノトシテ使用セリ。然レド是等ノ中ニモ時ニ生菌ヲ有シ動物ニ慢性結核ヲ起シ

(原澤抄)

# 37、年齢及性別ニヨル結核ニ對スル過敏性

#### ニ就テ

Clemens Pirquet

(W. K. W. Nr. 23, 1928.)

婦人ハ妊娠産儛等ヨリ由來スル結核多り爲メニ三十歳前後ニ於テ結核死亡率又幼若兒童ハ一般ニ結核ニ對シテ過敏ニシテ死菌ノ主役ヲ演ズルモノナリ。ニ於テ後者ヨリモ早ク發現ス。

**贅言ヲ要セザル處ナリ。** 前述ノ如ク幼年者ノ結核ニ對スル危險ハ著大ニシテ之が能働的免疫ノ必要ハ

余ハ本「BCG」ノ人體應用ハ未ダ絶對ニ讚成シ得ザルモノナリ。 菌が正確ニ攝取セラルベキ皮下注射ハ未ダ共ノ成績十分ニ發表セラレズ。 ハローセンフェルド及ビグッツェル氏等ノ指摘セル如ク統計上ノ誤謬ナリ。 ハローセンフェルド及ビグッツェル氏等ノ指摘セル如ク統計上ノ誤謬ナリ。 ハローセンフェルド及ビグッツェル氏等ノ指摘セル如ク統計上ノ誤謬ナリ。 ルメット氏が提唱スル被免疫初生兒七萬五干ノ死亡率ノ減少セルコトル・ 大ク疑問トスル處ナリ。而シテ此ノ無毒ニシテ而モ免疫ヲ起ス唯一ノ論據トリテカルメット氏ハ無毒ナリト稱スル「BCG」ヲ終日的ニ初生兒免疫ニ使用

# 38、「BCG」接種ニ依ル動物ノ病理組織的變化

H. Chiari (Ebenda)

中心トスル淋巴球上皮樣細胞ノ集團肝質質內ニ散在ス。胃壁密著シ腸管ト癒著ヲナス。肝臓脾臓ハ腫大セザルモ組織的ニハ頽廢物ヲ『BCG』一五•○瓱ヲ海猽腹腔ニ接種シ四週後ニ之ヲ檢スルニ大網ハ縮少シニ

第八週ニテハ此ノ部分ニ巨大細胞ヲ見ル。

リテ之ヲ園ミ上皮様細胞巨大細胞ヲ有スル肉芽組織アリ。大網ハ强ク變化ヲ呈シ灰黄色ノ小結節ヲ有シ共ノ中心部ニハ白血球ノ浸潤ア

「BCG」注射後八ケ月ニテ人型又ハ牛型結核菌ヲ腹腔ニ接種シテ百四十六日「BCG」注射後八ケ月ニテ人型又ハ牛型結核菌ヲ腹に、接種シテ百四十六日

(原澤抄)如何トナレバ長時生存セル結核動物ハ屢~肝硬變狀ヲ呈スルヲ以テナリ。

## 結核免疫ト「BCG」豫防接種ニ就テ

 $3\dot{6}$ 

Edmund Nobel (Ebenda)

「BCG」ノ毒力アルコトハクラウス氏等ノ試験ニョリ明トナレリ。若シ「B

ハ尙ホ早且ツ危險ニシテ尙ホ十分ナル動物試驗ヲ必要トス。余ハ動物ニテ免然レドモ本「ワクチン」ノ有毒ナル以上之ヲ小兒ニ用ヒテ免疫試驗ヲナスコトCG」ニ免疫アリトスレバ之ハ感染免疫ヲ起スモノナルベシ。

「BCG」ヲ一○•○瓱五頭ノ海猽ニ 經口的ニ 與ヘタルニ一頭が肺ニ結核結節

疫試験ヲ行ヒ次ノ結果ヲ得タリ。

(原澤抄)

ヲ見タリ。 リン」反應陽性トナリ八十五日後ニ於テ撲殺セシニ腹腔臟器ノ結締織性癒著又「BCG」ヲ一○•○瓱二頭ノ海猽ノ腹腔ニ接種セシニ十八日後ニ「ツベルク

射セシモノヨリモ生存日敷稍~長カリシノミ。三百日ノ間ニ死亡シ唯對照トシテ前處置ナキ海猽ニ有毒結核菌ノ同一量ヲ注菌一・○─二・○─五・○延ヲ腹腔ニ接種セシニ何レモ 重症結核ヲ起シ百乃至ヲ腹腔ニ接種シ第一囘注射ヨリ八十五日第二囘注射ヨリ三十九日目ニ有毒結免疫試験トシテ六頭ノ海猽ヲ取リ最初ニ一○・○瓱次囘ニ五・○瓱ノ「BCG」

(原深抄) 又腹腔接種ニテモ結核感染ノ豫防ヲナサズ僅ニ其ノ生存日敷ノ對照動物ヨリ以上ノ實驗ニヨリ「BCG」へ經口的投與ニテハ動物ヲ十分ニ感染セシメ得ズ

# 40、「BCG」ヲ以テ免疫セル初生兒統計ニ

#### 就テ

Siegfried Rosenfeld (Ebenda)

疫的效果ニ大ナル疑問アルベキヲ說述セリ。 (原澤抄)モノニンテ全ク統計トンテ償値ナキモノナルコトヲ細論シ従ツテ「BCG」ノ果ノ存在ヲ主張セリ。然ルニ著者ハカルメット氏ノ統計法ハ根本的ニ誤レル果ノ存在ヲ主張セリ。然ルニ著者ハカルメット氏ノ統計法ハ根本的ニ誤レルカルメット氏ハ「BCG」免疫初生兒ノ死亡率就中結核ニョル死亡率ノ非免疫カルメット氏ハ「BCG」免疫初生兒ノ死亡率就中結核ニョル死亡率ノ非免疫

# 41、開放性結核ヲ有スル家庭ニ於ケル兒童

### ノ運命ニ就テ

抄録

A. Götzl (Ebenda.)

シ稍く底シ。 至ル迄ノ死亡關係ヲ調査シ其ノ死亡率ハ七%ニシテ平均死亡率ノ八%ニ比シ著者ハウキンニ於ケル千百十三人ノ結核家族ヨリ出デタル小兒ニ就テ六歳ニ

賴シテル亡率ノ減少ヲ承認シ得ズ。 (原澤抄)率高キ生後第二、三日ノ夗亡敷脫漏セルヲ以テ氏ノ提示スル數字ヲ直チニ信ヲ蓍シク底下セシメ三•一%ト爲シ得タリト 云フモ 氏ノ統計中ニハ 最モ死亡カルメット氏ハ結核家族ヨリ出デタル兒童ニ氏ノ豫防接種ヲ行ヒ其ノ死亡率

## 42、肺疾患ニ對スル生命的豫後

Maximilian Sternberg

(W. K. S. Nr. 29 1928)

氣管枝擴張や肺浸潤モ結核ト鑑別困難ナリ。

(原澤抄)

# 43、カルメット氏「BCG」豫防接種ニ就テ

. Kraus (W. K. W. Nr. 30, 1928)

Handbuch der Pathogenen Mikroorganiomen von Kolle-Kraus-Uhlenhuth 1928「BCG」=就テハー九二六年以來腹、共ノ實驗成績ヲ報告シ**又之ヲ總**括シテ

一、「BCG」ハ結核性變化ヲ起スモ一定期後ニハ治癒ニ向フモノナリ。而

記載セリ。

故ニ今唯次ノ諸點ヲ略述セシ。

一二七

一二 八

之ヨリ培養スルコトハ易シ。

三、「BCG」ハ動物體内ニテ漸次消失スルモノナリ。二、「BCG」ノ毒性ハー定ニシテ種々ノ條件ニヨリ變化スルコトナシ。

四、「BCG」接種動物ハ「ツベルクリン」ニ反應スルコト極メテ弱シ。

(原澤抄)

# 4、カルメット氏「BCG」ニヨル豫防接種

#### ニ就テ

F. Gerlach (Ebenda)

海猽家兎ニ行ヒタル免疫試験ハ對照ニ比シテョキ成績ヲ得殊ニ猿ニ於テハ良ヲ犢ニ豫防ノ目的ニ用ヒタリ。然シ其ノ結果ハ敷年後ニ非レバ不明ナリ。「BCG」ハ結核性變化ヲ起スモ途ニ治癒シテ後遺病ヲ殘サドルコトヲ知リ之

# 蛔蟲感染ト結核トノ關係ノ動物試験

(原澤抄)

好ナル結果ヲ得タリ。

45

宇上英夫

(慶應醫學 八卷五號)

ニシテ組織學的ニハ結節前者ハ多ク停止性ヲ示シ。後者ハ進行性ナリ。加ヲ認ム。(二)尙ホ前者ニ於ケル肺肝ノ結核性變化ハ後者ノ失レヨリモ輕度ミヲ行ヒタルモノニ比シ死期特ニ早カラズ、又前者ニ於テハ一般ニ體重ノ増(一)蛔蟲感染後十七乃至三十二日目ニ結核感染ヲ行ヒタルモノハ結核感染ノ

(池上抄)

以後ニ最高ニ達ス。(五)原簽鑑群(ランケ)ハ頻繁ニ見ル能ハズ。(六)胸腺淋

# 出液ノ蛋白及「プィブリノーゲン」含有4、滲出性肋膜炎患者ニ於ケル血清竝ニ滲

#### 量卜其消長

(十全會雜誌 三十三卷六號) 中瀨眞亮,廢井寅三郎

敷ハ低シ。(二)血清蛋白及ビ係敷ハ滲出液ノ消長ト逆比的ニ變動ス。(三)血(一)滲出性肋膜炎患者ニ於ケル血清蛋白量ハ健康者ノ夫レヨリモ多ク蛋白係

増加シ,滲出液ノ増減ニ正比例シテ増減ス。(五)滲出液「フィブリノーゲン」比的ニ變動ス。(四)滲出液ノ蛋白量ハ健康者肋膜腔液及ビ漏出液ヨリ遙カニ漿「フィブリノーゲン」ハ健康者ノ夫レヨリ遙カニ増加シ滲出液ノ消長トハ正

ハ血漿ノ夫レニ比シ甚ダ微量ナルモ滲出液ノ消長ト正比的ニ變動ス。

(池上抄)

# 47、剖檢材料ヨリ見タル結核性疾患

內山

(東北醫學雜誌 十一卷三、四、五册)

ニ近キ免疫ヲ有ス。(八)心臟ノ機質障碍ヲ有スルモノニ於ケル呼吸器ノ進行 巴腺體質ハ結核ノ感染侵蝕ニ對シテ抵抗力ヲ有ス。(七)十歳前ニハ殆ド完全

性結核ハ傾メテ少ナク却テ治癒ニ赴クモノ多シ。

(池上抄)

### 液瓦斯ノ變化竝ニ其ノ臨牀的價值 肋膜炎滲出液穿刺ニ際シテ現ハル 血

山田詩郎、八田俊之、長谷川忠三

(十全會雜誌第三十三卷第七號)

酸素含有量ノ不變ナルニ至リテ止ム。 化ヲ認メザル例ニ於テハ再豬溜ヲ來スコト殆ドナク反復瀦牊スル如キ場合モ ノ兩期ノ間ニテ觀察スル時ハ殆ド不變ナリ。(三)穿刺後血液酸素含有量ノ變 週ニシテ穿刺スル時ハ血液酸素量増加シ五週以後ノ穿刺ニ於テハ減少シ、此 於ケル血液酸素含有量ノ異動ハ三型ニ分ツコトヲ得。卽チ瀦溜後二週乃至三 ハ十分乃至三十分ニシテー時間後ニ於テハ殆ド舊位ニ復ス。(二)穿刺直後ニ 疾患觀察ヲ企テ實驗ニョリ次ノ結論ヲ得タリ。(一)滲出液穿刺量三○○竓以 上ナルニ及ビ始メテ靜脈血中酸素含有量ニ變化ヲ認ム。而モ其ノ變化ノ持續 灣出性肋膜炎ハ肺臓ニ大ナル影響ヲ及ポスヲ以テ血液瓦斯變化ノ方面ヨリ該 (池上抄)

### 49 肋膜炎患者ノ肺活量ニ就デ

高 橋

實

(十全會雜誌 第三十三卷第七號)

肺活量ヲ求メタリ。 出シ男子ニテハ一平方米ニ對シ二立。女子一•八二立。トナシ之ニョリテ標準 體表面積(下方種)=體重(瓩)×鳥長(種)×71.84ノ公式ニョリ體表面積ヲ算 (一)肋膜炎患者ノ肺活量ハ蓍シク減少ス。滲出液豬溜量

抄

排除スルモー定度迄ハ肺活量ニ影響ヲ與ヘズ。一定量ヲ越スニ至リテ増加ス 及ど瀦溜出現後ノ時期的關係トノ間ニハ一定ノ規則ナシ。(三)滲出液ヲ穿刺 ニ達セズ。 ルモノハ他期ニ施行セルモノニ 比シテ 比較的速 カニ 肺活量ノ上昇ヲ見ル。 ルモ排除量ニ比シテ甚シク少ナシ。(三)液潴溜後三乃至四週ニシテ排除シタ (四)穿刺排除後ノ肺活量増加速度ハ極メテ緩徐ニテ長時ヲ經ルモ標準肺活量 (池上抄)

### **5**0 肋膜炎患者ニ於ケル血液像特ニ核推移

ニ就テ

田 義

(十全會雜誌 第三十三卷第七號)

増惡ニ従テ一定ノ變化ヲ來シ、 ジン」嗜好細胞ハ増加シ、核推移ハ右方移動著シ。 (二)著明ナル左方移動ヲ呈 經過良好、液ノ豬溜ナキ時ハ白血球、中性多核白血球ハ減ジ、淋巴球、「エオ スルモ他ノ血液像ノ變化略~尋常ナルハ炎症ノ再燃ヲ疑ハシム。(三)經過ニ ニ核推移ハ鋭敏ニ反應シ、之ニヨリテ症狀變化ノ大體ヲ親知スルヲ得。(一) 滲出性肋膜炎患者ニ於ケル血液像ハ特有ノ變化ヲ示サベルモ經過ノ輕快或ハ 又滲出, 吸收兩機轉ニ應ジテ變化ヲ認ム。殊

### 51

不良及ビ液豬溜ノ傾向アルヲ示ス。

(池上抄)

中性多核白血球ノ増加、淋巴球ノ減少ヲ來シ、且ツ左方移動著シキハ經過 於ケル血液像變化ノ少ナキハ病機及ビ滲出機轉ノ變動少ナシ。(四)白血球

結核ト妊娠

Bd. 29, 14. 5/6, 1928.) (Zentralb. f. die gesamte Tuberkuloseforschung fose Infantozzi

性結核菌が何等ノ病變ヲ起サズシテ母ヨリ胎兒ニ移行スル事ハ證明シ得ラル (一)胎盤ヲ通ジテ胎兒ニ結染傳染ヲ起ス可能性アルモ稀ナリ。實験的ニ濾過 ル處ナリ。

弱ニシテ間モナク死亡スル事少カラズ。 (二)肺結核ハ屢~早産,稀レニ流産ヲ起ス,小兒ハ健康ナル事アルモ多ク病

ル故ニ凡テノ場合ニ人工流産ヲナス可キナリ。 産ヲ見合スヲョシトス。喉頭結核ハ妊娠ニヨリテ非常ニ増惡セラル、モノナ ナス可キナリ、其後ニアリテハ胎兒ノタメニ母ノ狀態ノ許ス範圍内ニ於テ流 (三)妊娠ニョリテ結核ノ增悪スル傾向アル時へ妊娠三ケ月以内ニ人工流産ヲ (春木抄) 佐 島

### 實驗的喉頭結核

S. Traina

seforschung, Bd. 29, H. 5/6, 1928.) (Zentralbl. f, die gesamte Tuberkulo.

ヲ起スモ血流、 喉頭結核ヲ起サドルハ痰ヲ喀出セザルガタメナリトス。 家兎ニ就キテノ實験ニシテ結核菌ヲ直接ニ喉頭ニ感染セシムル時ハ喉頭結核 淋巴道ョリシテハ結核ヲ起サズ、家兎ノ重症肺結核ノ場合ニ (春木抄)

### 會報並 雑報

## ○昭和三年九月入會者

滌 仙臺市、東北帝國大學醫學部內科

田 中 英 熊 山口縣吉敷郡仁保村

由 利 良 德 北海道龜田郡尻岸內村一九

泰

造

東京府荏原郡松澤村杉原八四二

友 清 常 喜 長崎縣四彼杵郡瀨戶町

橫 中 Ц Ш 佐 Æ 代 次 治 神戶市下手通八十目一六〇 岐阜縣養老郡池邊村

中 Ш 元 雄 下關市立、高尾病院

井 亮 東京市淺草區地方今戶町四十三番地

新

# ○國際的大學療養所ノ設立計畫

瑞四帝國官憲ニ其意ヲ非公式ニ示シ、帝國ガ右國際的親善ノ一助タル國際結 dinitiative ノ幹事長ドクター•エル•バウチエ氏ハ先般右計畫ノ內容ヲ提ゲ在 Universitaire ヲ開設セシガ、右療養所ノ成績良好ナルニョリ之ヲ擴大シテ國 附金ニ依リー九二二年十月一日以來同國レーザンニ大學療養所 Sanatorium 之ヲ收容治療シ同時ニ修學研究ノ便ヲ與フル目的ヲ以テ、敎授及ビ學生ノ寄 瑞匹内ィ大學ノ教授及ビ學生ニシテ結核ニ罹レル者ハ、國籍ノ如何ヲ問ハズ 際的ノモノトナス計畫アリテ、 右計畫遂行ノ衝ニ當リ居ル準備委色會Comité